

福山市立大学 研究シーズ集

教育学部

都市経営学部



FUKUYAMA CITY UNIVERSITY
福山市立大学

本シーズ集における SDGs (Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)の掲載について

次ページ以降の研究シーズの紹介では、各教員の研究内容に該当する SDGs (Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)の目標のマークを掲載しています。お読みいただいている皆様が関心を持っている SDGs の目標に該当するシーズがあり、それが本学と皆さまのパートナーシップの形成の一助となれば幸いです。

SDGsとは

SDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)は、「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。2015年の国連サミットにおいて全ての加盟国が合意した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で掲げられました。2030年を達成年限とし、17のゴールと169のターゲットから構成されています。



17のゴールとは

<p>1 貧困をなくそう</p>	<p>1 貧困をなくそう あらゆる場所あらゆる形態の貧困を終わらせる</p>	<p>10 人や国の不平等をなくそう</p>	<p>10 人や国の不平等をなくそう 国内及び各国家間の不平等を是正する</p>
<p>2 飢餓をゼロに</p>	<p>2 飢餓をゼロに 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養の改善を実現し、持続可能な農業を促進する</p>	<p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>11 住み続けられるまちづくりを 包摂的で安全かつ強靭(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する</p>
<p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	<p>3 すべての人に健康と福祉を あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する</p>	<p>12 つくる責任 つかう責任</p>	<p>12 つくる責任 つかう責任 持続可能な消費生産形態を確保する</p>
<p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p>4 質の高い教育をみんなに すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する</p>	<p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	<p>13 気候変動に具体的な対策を 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる</p>
<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>	<p>5 ジェンダー平等を実現しよう ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児のエンパワーメントを行う</p>	<p>14 海の豊かさを守ろう</p>	<p>14 海の豊かさを守ろう 持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する</p>
<p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>	<p>6 安全な水とトイレを世界中に すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する</p>	<p>15 陸の豊かさを守ろう</p>	<p>15 陸の豊かさを守ろう 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する</p>
<p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>	<p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的なエネルギーへのアクセスを確保する</p>	<p>16 平和と公正をすべての人に</p>	<p>16 平和と公正をすべての人に 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する</p>
<p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p>8 働きがいも経済成長も 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用を促進する</p>	<p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p>	<p>17 パートナーシップで目標を達成しよう 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する</p>
<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう 強靭(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る</p>		



保育における子ども理解

教育学部児童教育学科 教授 池田 明子

キーワード

保育・幼児教育、子どもの見取り、子ども理解、保育者の支援、幼保小接続

該当するSDGs

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

保育現場での勤務経験を活かしながら、子ども理解を核とした保育の構築に向けて、保育者による子どもの見取りや支援について研究を行っています。子どもが主体性を発揮しながら遊び、生活するためには保育者が子どもをどのように見取り、理解することが大切なのか、子どもと共に創る保育を展開するためには保育者がどのように保育環境を構成し、支援することが必要なのかということを追及しています。そのことを通して、保育者自身が子どもから学ぶことの大切さや保育の愉しさを実感できるような研究を進めていきたいと考えています。そのために私自身は、子どもを見取り、支援する保育者の営みを俯瞰して観ることと同時に、保育者の心もちに寄り添い、共に学ぶ姿勢で保育現場に貢献できたらと考えています。

また、幼児教育と小学校教育との接続に向けて、子ども同士の交流活動や保育者・教師同士の連携に関する実践及び実践研究を進めてきました。このことを土台としながら、現在求められている更なる幼保小の接続に向けて、接続期における保育者・教師の子どもの見取りと支援について研究を進めています。保育・幼児教育と小学校教育では教育内容や指導方法等に違いはありますが、一人ひとりの子どもの成長や学びを理解し、長期的に見守り、支えるために、保育者・教師同士がまなざしを共有していくこと、保育・幼児教育と小学校教育それぞれの独自性を尊重すると共に、お互いのよさを学び合い、保育・授業実践に活かしていくことが次代を担う子どもたちの確かな成長や学びにつながると捉えています。

2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

- ・乳幼児期の子どもの見取りと支援に関する研究
- ・幼保小接続に関する研究

これまでの連携実績

- ・公立幼稚園教育研究会講師(福山市・三原市)
- ・公立幼稚園・こども園園内研修講師(福山市・東広島市)
- ・教員の資質・向上能力推進事業講師(広島市立幼稚園)
- ・私立保育連盟研修会講師(三原市)
- ・広島県国公立幼稚園・こども園連盟教育研究大会三原大会講師
- ・幼稚園中堅教諭等資質向上研修講師(広島県・岡山県)
- ・就学前・小学校連携研修講座講師(岡山市)
- ・就学前教育・保育研修講座講師(笠岡市)
- ・広島大学附属三原幼稚園・小学校・中学校・幼小中一貫教育研究会保育部会指導・助言者



言語の獲得と喪失

ー神経心理学に基づく言語病理の解明ー

教育学部児童教育学科 教授 伊澤 幸洋

キーワード

ことばの発達、言語障害指導法、発達障害、学習障害、心理・教育アセスメント

該当するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

言語の獲得と喪失の研究は人間科学の中心的なテーマの一つである。これまで、脳損傷による後天性の言語障害である失語症に関して多くの研究業績を上げてきた。そこでは、脳損傷部位との関連を踏まえつつ該当する心理検査を適用しながら神経心理学の観点から研究を行ってきた。それらの研究知見を活かし、言語発達障害を呈する児童に対して、脳の機能局在を想定した障害機序の解明と指導法の研究を行っている。研究対象は、失語症および言語発達障害、限局性学習障害、注意欠如・多動症に伴う言語障害、機能性構音障害等である。現在、読み書き障害のスクリーニング検査の開発、発達障害児の心理アセスメントと指導法の研究を行っている。

2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

- ・ことばの発達に関する相談とその支援および指導実践
- ・児童の言語および学習に関する相談
- ・発達障害に関するスクリーニング検査の開発

これまでの連携実績

- ・福山市教育巡回相談事業相談員
- ・福山市ことばの相談室職員研修



読みに困難がある子どもの個別の実態把握と指導プログラムの立案

教育学部児童教育学科 教授 今中 博章

キーワード

小学生、読み困難、実態把握、指導立案

該当するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

読みに困難がある子どもの研究をしています。文字を読む、文章を読む。難なくできる人からは想像できないかもしれませんが、実はすごいことなのです。一方、読みに困難がある子どもに目を転じると、例えば、目から、耳から入ってくる言葉や文字に関する情報を処理する以前に、言葉や文字のもとになる情報をうまく処理できずに困っている子どもがいます。読みに困難がある子どもといっても、その理由はさまざまです。したがって、一人ひとりのつまずきの状態と理由を正しく把握したうえで、それらに合った指導プログラムを立案することが大切になります。また、読むという活動は学校においては、国語の時間のみならず、あらゆる授業場面、学校生活場面に含まれるので、早めの予防的な対応が必要です。小学2年生の夏前ぐらいの時点でひらがな拗音(きゃ、きゅ、など)で読み間違えがしばしば見受けられる子どもの場合が、これに該当することが多いように経験的に感じています。

2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

- ・読みに困難がある子どもの個別の実態把握と指導プログラムの立案にご協力できる可能性があります。
- ・その他、発達障がいや知的障がいのあるお子さんの教育相談にも対応できます。

これまでの連携実績

- ・福山市巡回相談員(特別支援教育、福山市教育委員会派遣)



算数・数学教育に関わる実践的な研究実践

教育学部児童教育学科 准教授 太田 直樹

キーワード

数学教育学、数理認識、子ども、文字式、統計・確率

該当するSDGs

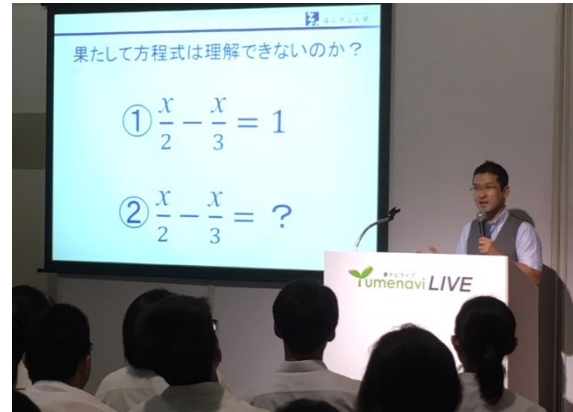
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

小学校教諭の経験をもつ実践研究者として、小学校の算数科の実践研究、幼児教育の「算数遊び」などの環境構成など、理論的背景を踏まえた上で、子どもたちの数理認識(つまずき)を大切に研究を行っています。学術分野では、数学教育学の数理認識論に関する研究が専門で、毎年様々な教育現場への指導講師を担っています。

必要に応じて、研究・実践授業などの計画段階から、相互に討議して検討していくことも可能です。



2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

- ①小学生の数理認識に基づくカリキュラム開発
- ②数学教育学全般の教材開発(教科書記載の教育内容以外の教材開発も可能)
- ③乳幼児期における数・量・形に関する保育活動

これまでの連携実績

- ①研修会講師の実績
 - ・公立小学校の公開授業研究会・校内授業研究会の指導講師を多数実施
 - ・算数授業研究会での授業研究の授業提案者、パネリスト、司会などを複数回にわたり実施
- ②講演会講師・公開講座講師の実績
 - ・高等学校のキャリアデザインとしての出張講義を複数回にわたり実施
 - ・「学力」「特別なニーズ」をテーマとする講座講師
- ③算数・数学に関わるコンクールの審査委員の委嘱



地域を題材とした教材開発と連携、 地域資源を活用した平和教育の国際的展開

教育学部児童教育学科 教授 大庭 三枝

キーワード

地域の歴史・文化を題材とした教材開発、幼児期から児童期の平和教育と世界的展開、国際理解と交流(フランス語圏を中心に)、保幼小連携、ESD

該当するSDGs



1 研究内容

福山在住の広島原爆体験者から聞き取り作成した平和紙芝居と体遊びから折り鶴への展開、福山空襲を題材とした紙芝居と歌、福山の民話紙芝居、福山城が見てきた 400 年の歴史をたどる紙芝居、福山地域の「青い目の人形」に関する教育資料作成のほか、福山の伝統芸能「二上りおどり」で用いられる「四つ竹」をヒントにペットボトルを再利用した教具を開発するなど、生活地域の歴史・文化を子どもたちが体験的に学ぶことのできる教材・指導法開発を行う実践的研究を展開している。

研究成果をもとに、地域では就学前教育から小学校への接続(保幼小連携)について 2012 年より市内全域を支援し、現在も樹徳・久松台学区他で指導継続中である。研究成果は広く世界でも評価され(ESD アワード 2019 受賞)、ESD に関するスウェーデンの就学前教育指導書にも掲載されている。多様性理解のため、世界の子どもたちとの交流も支援している。

2.3 Three Steps of Developing Peaceful Mind in Children and Students

① 紙芝居
Kamishibai = Picture + Story
Impressing children with an image of peace

② 手(体)遊び
Physical expression with a song
Understanding the meaning of a song
Physically expressing peace-developing process

③ 折鶴制作
Folding paper cranes
Wishing peace by making paper cranes with friends

Ref: OBA-M (2018), The 2019 Education for Sustainable Development Award Winner's Presentation, 71st OMEP International Conference, Panama City

Spreading Peace Education in Early Childhood Around the World OMEP

- In Sweden "Preschool education for sustainability" Chapter 14: Peace education



2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

- ・地域教材: 地域資源を活用した教材開発(フィールドワークからの教材化)と発信
- ・平和教材: 戦争体験者からの聞き取りとアーカイブ資料の作成、子どもたちへ証言の継承と多言語による発信
- ・学区の特性を生かした保幼小連携の推進(就学前教育からの接続)
- ・多文化: 多様性理解を促進する保育・教育、多文化共生・国際理解教育の推進
- ・ESD(持続可能な開発のための教育)(環境、平和、教育分野)

これまでの連携実績

- * 福山市・福山市立大学連携事業「福山市の保幼小連携に関する研究」代表(2012~2018 年度)。
- * 地域資源の発掘と教材化(体験者からの聞き取り・現地調査に基づく平和教材・紙芝居開発、金江小学校と連携し「青い目の人形」教育資料作成、等)。(注)平和教育研究は OMEP(世界幼児教育・保育機構)より「ESD アワード 2019」を受賞。
- * 福山市立保育所とフランスの公立保育学校との交流を援助、幼児期における多文化理解を促進(現在も継続中)。
- * コロナ禍における非対面状況における教材開発(巨大折り鶴制作)とその実践(保育指導課と連携)→平和アピール展へ
- * ばら祭テーマソング「心に咲く花」に手話ダンス振り付け(福山市立女子短大時代)→地域教材として毎年ばら祭で披露。
- * 「二上りおどりの」の「四つ竹」をヒントに、ペットボトルを再利用した鳴り物「カッチンくん」を開発
 - 二上りおどり大会では毎年福山市立大学連が「四つ竹」と「カッチンくん」を鳴り響かせ踊る(制作・踊り指導)
 - 子どもフェスティバルでは「カッチンくん」工作 TENT を運営 (注)福山の伝統芸能「二上りおどり」を基に展開した教育プログラム(福山市立女子短大)は、平成 19 年度文部科学省現代 GP(現代的教育ニーズ取組支援プログラム)に採択

問合せ先 福山市立大学事務局総務課(地域連携センター)

TEL:084-999-1112 FAX:084-928-1248 MAIL:renkei@fcu.ac.jp



音楽を指導する先生方を多角的に支援

～今を生きる子どものために

音楽教育はどうあるべきかを共に考え、追求します～

教育学部児童教育学科 教授 古山 典子

キーワード

音楽教育、授業研究、教師教育、音楽経験プログラム、文化芸術振興

該当するSDGs



1 研究内容

これまで、保幼小の音楽活動での教師・保育者と子どもたちの様子をありのままに捉え、そこに多層的に張り巡らされている意味の網の目を読み解いていくことを目的として、フィールドワークを研究手法としながら研究を行ってきました。また、同じく芸術として括られる美術との比較を通して、音楽と音楽教育(学校教育と専門教育)の独自性をそれぞれ相対化しながら、音楽科のあり方を考えてきました。

とくに、教師・保育者自身の音楽に対する価値観や感性が音楽指導の礎となっていることから、小学校教師の美的価値観や指導観の様相とその変容過程について焦点をあてた研究を継続的におこなっています。近年は、教師の美的価値観の変容を促すことを目的として、教師自身の音楽を聴く力の重要性に着目し、小学校教師を対象とした対話型音楽鑑賞経験プログラムの実証研究に取り組んできました。

2025年度からは、これまでの研究の成果を生かし、対話型音楽鑑賞経験プログラムを教師だけではなく、児童・生徒はもとより生涯学習へと視点を広げ、実践と研究を進めていきます。

また、音楽を教える教師の専門性について、工学の研究者らと共同し、教師の発言内容や視線、身体性、音響などの科学的なデータを多角的に組み合わせながら解明する研究とともに、一人ひとりの教師の語りから、音楽を教えるという経験を浮かび上がらせるライフヒストリー研究にも取り組んでいます。

2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

- ・対話型音楽鑑賞経験プログラムの実証研究
- ・音楽授業や指導内容、また指導案・保育案に対する指導・助言
- ・音楽鑑賞または音楽づくりを中心とした音楽指導に関する講演
- ・音楽鑑賞または音楽づくりを中心としたワークショップの開催
- ・幼児・児童、保護者を対象とした音楽イベントの企画・開催
- ・文化芸術振興に関する助言

これまでの連携実績

- ①教師を対象とした音楽鑑賞経験プログラムの開催
- ②小学校校内研修会講師、幼稚園研修会講師、その他音楽に関わるテーマに関する講演、地域の音楽文化振興に関するシンポジスト等
- ③市民を対象とする音楽ワークショップの開催
- ④文化芸術振興についての助言



美術(絵画)表現活動から考えるモノづくりと教材研究

—感性を生かした創造的活動のお手伝いをします—

教育学部児童教育学科 教授 渋谷 清

キーワード

美術(絵画)表現活動、美術(図工)教育、美術館連携、商品開発デザイン、アートワークショップ

該当するSDGs
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

絵画教育の視点から油彩画の技法研究と抽象的な絵画作品研究を進めています。東京、広島をはじめ全国のギャラリー、美術館で個展等を開催。自ら洋画家として絵画表現活動をすると同時に、美術教育者として“造形あそび”の要素を取り入れた表現教育の教材研究や、美術館と連携した鑑賞教育の授業づくり、あるいは生涯学習の視点から“敷居の高くないアート”をテーマとしたアートワークショップや、公開講座等を実践展開しています。



一方で、絵画要素としても重要な「形」、「色彩」、「イメージ」が生かされた作品づくりや、モノづくりにも共同研究の中で国際ビジネス見本市等へ出展するなどの取り組みをしてきました。

2 連携可能性のある研究分野, 又は, これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

- 絵画的な「形」、「色彩」、「アートイメージ」が生かされた作品づくり、モノづくりに関すること
- 保育所・幼稚園、小学校、中学校、高等学校等の教育現場における美術(図工)教育に関する事前・事後研究会でのアドバイス、実技研修、作品研究会等におけるアドバイス、審査、講評、講演
- 美術館や造形研究会等での造形表現テーマに応じたアートワークショップの企画・実施

これまでの連携実績

- 企業との共同研究
 - 株式会社大昌(商品開発課)との共同研究で、アクリル端材を再利用した花用スタンドやデザインアクリル額、及びインテリアグッズ等の立体造形技術の開発と造形装飾デザインを行った。
- 造形教育、美術教育に関する研究会、授業づくり、作品研究会のための支援
 - ・ 幼稚園、小学校、中学校にて、広島県造形教育研究大会に向けた研究授業の指導助言をした。
 - ・ 図画工作科の専門研修講座の講師として広島県立教育センターにて絵画技法の実技指導をした。
 - ・ 中国浙江省杭州市にて「日本の幼児造形教育について」をテーマとした講演を行った。
 - ・ 安芸高田市教育委員会主催の安芸高田市児童生徒自画像展で、審査委員と講評者を務めた。
- 公開講座、アートワークショップの企画・実施
 - ・ “はじめる絵画講座”とした各公開講座「基礎から描く水彩画」、「透明水彩画を描く」、「プレス機で刷る手作りポストカード」、「アクリル絵具で描く細密画」、「調子を変えて描くデッサン」を実施した。
 - ・ 美術館や造形研究会等でその展示内容や造形テーマに応じてアートワークショップを行った。「青児風カレイドスコープを制作して、作品鑑賞してみよう!」、「色彩を限定して描く水彩画」、「絵具を使った造形遊び」、「抽象画にチャレンジ!」、「みんなで大きな木をつくってみよう!」など。

問合せ先 福山市立大学事務局総務課(地域連携センター)

TEL:084-999-1112 FAX:084-928-1248 MAIL:renkei@fcu.ac.jp



地に足をつけたキャリア形成

～青年心理学・キャリア教育・自己形成の視点から～

教育学部児童教育学科 教授 高澤 健司

キーワード

キャリア教育、キャリア発達、自己形成、学生から社会人への移行、
進路選択

該当するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

学生から社会人への移行にあたっての課題をキャリア発達や自己形成の視点から研究をおこなっています。具体的には就職前後におけるインタビュー調査から、社会人になることにあたっての課題を発達心理学や青年心理学の知見を活かして検討しています。また、大学の授業では地に足をつけたキャリア形成をテーマにワークをおこなっています。これらの知見を活かして、小中学生や高校生、大学生のキャリア教育のあり方について検討するとともに、若者の進路選択や、働きやすい職場環境や人材育成についても共に検討していきたいと考えています。

2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

これまでの連携実績

- ・青少年育成大会講師(ひきこもりと社会の接点)
- ・心理学やキャリア発達、キャリア形成に関する公開講座講師
- ・子育てサロン研修交流会講師(思春期の子どもへの対応)



小学校英語の効果的で持続可能な授業づくり

教育学部児童教育学科 講師 瀧本 哲弘

キーワード

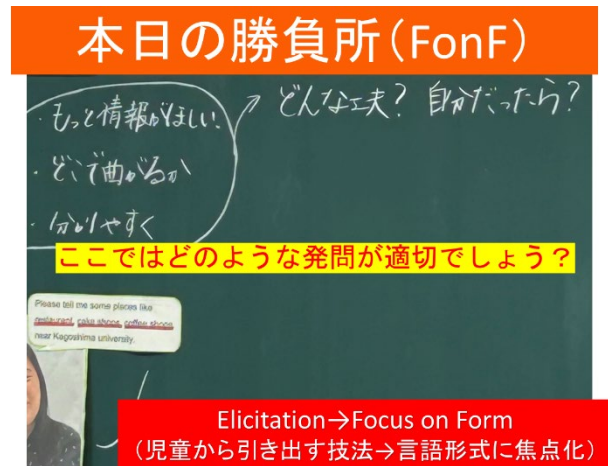
授業構成、単元構成、TBLT、Focus on Form、改訂型 PPP



1 研究内容

英語教育学の授業研究で主流となっている 2 つの授業構成をベースとして、どのように 1 つの「授業」(小学校の場合は 45 分間)や、授業テーマごとの塊である「単元」を組み立てていけばよいかを研究しています。1 つ目は、その日行う英語を使った課題活動(Task)を行うための準備(Pre-task)、課題活動の実施(Main-task)、活動後の振り返りや修正・課題の再実施(Post-task)という流れの TBLT(Task Based Language Teaching)という構成です。2 つ目は、その日習う表現を提示し(Presentation)、その表現を練習し(Practice)、練習した表現を使った言語活動をする(Production)という流れの PPP という構成です。これらの授業の各フェーズで、どのような活動が児童にとって効果的で、教師にとって持続可能かということを研究しています。加えて、英語コミュニケーションに重点を置く中で、児童に英語の形式にも自然と着目させる Focus on Form という指導技術の具現化についても研究しています。

改訂型PPP	TBLT
①Presentation 日本語による明示的演繹的文法説明or英語による帰納的指導	①Pre-task phase パフォーマンスのモデル、主要表現の提示、既有知識のスキーマ化、パフォーマンスの準備
②Practice 機械的練習+コンテキストの中での練習、形式と意味に焦点を当てた練習	②Main-task phase 時間制限、コンテキストの支援、明示的指導、サプライズな追加事項の説明
③Production 目標文法を使う活動+文法項目を指定しない自由度の高い活動(自由度の高いタスクも含む)	③Post-task phase タスクの再チャレンジ、報告、課題となった言語形式の練習



2 連携可能性のある研究分野, 又は, これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

- ・小中学校における外国語活動、外国語科の授業改善の支援
- ・外国語活動、外国語科についての教員研修
- ・ICT 含む教材開発

これまでの連携実績

- ・九州地区英語教育研究団体連合会(九英連)主催九州地区大会指導助言者
- ・鹿児島県教育委員会主催免許法認定講習講師
- ・小学校外国語科検定教科書『CROWN Jr.』(三省堂)編集委員 他



ドイツ・ユダヤの対話思想

—他者との共在の可能性—

教育学部児童教育学科 講師 田中 直美

キーワード

ドイツ・ユダヤ思想、他者との共在、対話思想、哲学対話、p4c

該当するSDGs

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

自分とは異なる考え方や意見をもつ他者とのように共に在ることができるかを、ドイツ・ユダヤ思想における「対話」概念を手がかりに、理論的・思想史的に研究しています。

かつて多くのユダヤ人を絶滅収容所へと送ったナチス親衛隊のアドルフ・アイヒマンの裁判を傍聴したハンナ・アーレントは、彼が予想された極悪非道とはほど遠く、思考を停止してみずからの仕事を淡々とこなした平凡な人物だったことを記しています。「悪の凡庸さ」という言葉で表わされたように、アイヒマンがユダヤ人を抹消しようとしたのはユダヤ人に憎悪を抱いていたからではなく、権威あるヒトラーを支持し、上役の命令に従ったからでした。このようなアイヒマンの人物像やユダヤ人「排除」の企ての背後にある様々な思想的・歴史的状況などをアーレントの著作から伺い知ることはできますが、それでもなお、なぜ同じ人間にあのような残虐行為が可能だったのかと問わずにはいられません。しかし「同じ人間」と言葉にすると、私たちはその「同じ人間」の中にある差異を見落としているようにも思います。

アーレントは「複数性」という言葉を用いながら、多様性つまり異なる意見や主張に不可欠の前提を理論的に追究していましたが、いかにしてこの「複数性」を私たちは担保することができるのでしょうか。

こうした問いを携え、最近ではアーレントと同じくドイツ・ユダヤ人であり、彼女よりも一世代程前に生きたフランツ・ローゼンツヴァイクの思想を研究しています。彼は 20 世紀の対話思想の源流に位置づけられているだけでなく、自由ユダヤ学舎という学校で教育実践もおこなっていました。いかにしてユダヤ人とドイツ人が、あるいはユダヤ人同士が、ひいては人類が共に在ることができるのかを模索した彼の理論を思想史的に解明することを試んでいます。

いかに他者と共に在ることができるのかというこの大きな問いに対する応答を、ローゼンツヴァイクの思想を中心とした文献研究だけではなく、合意形成のための話し合いやディベートなどとは異なる哲学対話を学生と実践しながら、日々模索しています。理論と実践はそう簡単に結びつくものでもなく、安易に結びつけて良いものでもありませんが、同じ問いを共有するものとして、理論と実践の両方から探究しています。



2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

これまでの連携実績

【企業・行政・各種学校の委員等の委嘱】

- ・都城市学校評議員
- ・都城社会教育委員会・公民館運営審議会委員

【講演会講師、研修会講師、公開講座講師の実績】

- ・対話理論と教育に関するシンポジウム登壇
- ・対話理論と実践に関する教員免許更新講習講師
- ・対話実践に関する公開講座講師

問合せ先 福山市立大学事務局総務課(地域連携センター)

TEL:084-999-1112 FAX:084-928-1248 MAIL:renkei@fcu.ac.jp



対話的で深い学びの創造と学校改革の支援

～「学びの共同体」の理念と哲学による学校改革の支援～

教育学部児童教育学科 准教授 長澤 貴

キーワード

学びの共同体、対話的で深い学び、人権保育

該当するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

「学びの共同体」の取り組みは、現在世界で最も注目される教育的取り組みの一つです。私は、この「学びの共同体」の理論的考察を行うとともに、「学びの共同体」の哲学と理念に基づき、多くの学校の改革の支援を行ってきました。このような取り組みの中で、いかにして対話的で深い学び、そして探究的な学びを教室に生成させることができるのか、教師の実践とその学びを支えるための校内研修のあり方は、そして、学校を改革していくためにはどうすればよいのかということについて、現場の先生たちとともに探求してきました。

2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

- ・多文化化の状況要因を踏まえた多文化共生保育実践の多様性の把握枠組みの精緻化(科研基盤研究 C)
- ・行動規範や価値観の多様性に着目した多文化共生保育の研究(科研基盤研究 C)
- ・価値観・行動規範の多様化に伴う保育現場の変容に着目した多文化共生保育の研究(科研基盤研究 C)
- ・「学びの共同体」の取り組み支援
- ・校内研修会講師

これまでの連携実績

- ・「学びの共同体」の取り組みを行う、小・中・高等学校の校内研修会、公開研修会講師
- ・幼稚園教諭・保育士の研修会講師
- ・人権保育に関わる現場保育士との協働



児童虐待防止予防への支援を社会的養護のあり方から研究します。

教育学部児童教育学科 教授 野口 啓示

キーワード

虐待をした親へのペアレント・トレーニングの開発的研究
里親養育支援モデルの開発的研究
児童福祉施設での養育モデルの開発的研究

該当するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

児童養護防止予防への支援を社会的養護のあり方から研究しています。具体的には、児童虐待をした親への支援、そして里親そして児童福祉施設で働く養育者への支援のあり方について興味があります。児童虐待をした親も里親そして児童福祉施設で働く養育者も被虐待児を養育しているという共通項があり、その支援のあり方にもお互いに通じる場所があります。どのようにすれば、児童虐待といった不適切な養育をストップできるのかについて、さまざまな機関と連携した支援を実際に行いながら考えています。

2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

施設から里親へが大きな国の政策の方向性になっていますが、それは可能なのでしょうか？里親養育支援の最前機関である児童相談所や児童養護施設のスーパーバイザーを務めながら、効果的な支援のあり方を探っています。また、里親支援・子育てサポートセンターとしての NPO 法人 GIVING TREE を仲間と立ち上げ、自らは理事長として組織の運営を行うのと同時に、里子養育に困難感を持つ里親へのペアレント・トレーニングを用いたエンパワメントアプローチによる支援を行っています。

これまでの連携実績

日本ファミリーホーム協議会との共同研究を実施。

広島県子ども・子育て審議会委員児童処遇部会長、福山市社会福祉審議会委員児童部会長、福山市生涯学習振興基金運営協議会委員、福山市共同募金会監事、兵庫県多可町いじめ防止対策検証委員会委員、兵庫県児童虐待アドバイザー、日本子ども家庭福祉学会理事、日本子ども虐待防止学会代議員

子育て、児童虐待、里親を中心に幅広く児童福祉に関する講演を実施。



「総合的な学習の時間」と「社会科」の授業改善についてお手伝いします。

教育学部児童教育学科 教授 林原 慎

キーワード

総合的な学習の時間、社会科、参加型学習、学習の効果、児童の特性

該当するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

「国際教育」について児童の学習の効果や要因分析に関する研究をしています。国内外の教育に現場レベルで携わってきた経験を活かして、「総合的な学習の時間」と「社会科」の授業改善についてお手伝いします。子どもたちに伸縮自在な世界観を身に付けてほしいと願っています。

「総合的な学習の時間」と「社会科」の授業改善についてお手伝いします。「国際教育」に関する講義も行っております。

小学校教員、NGO 職員として、日本国内外の教育に現場レベルで携わってきました。また、学習の効果を実践的・実証的に研究しています。

2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

- ・「総合的な学習の時間」の授業改善の支援
- ・「社会科」の授業改善の支援

これまでの連携実績

- ①海外で実施される教員研修の講師
- ②海外から日本へ招聘される教員研修の企画・運営
- ③小学校・中学校での教員研修の講師
- ④国際理解教育に関する講師等



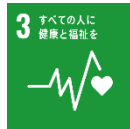
睡眠や生活リズムに困難のある人の理解と支援

教育学部児童教育学科 准教授 平野 晋吾

キーワード

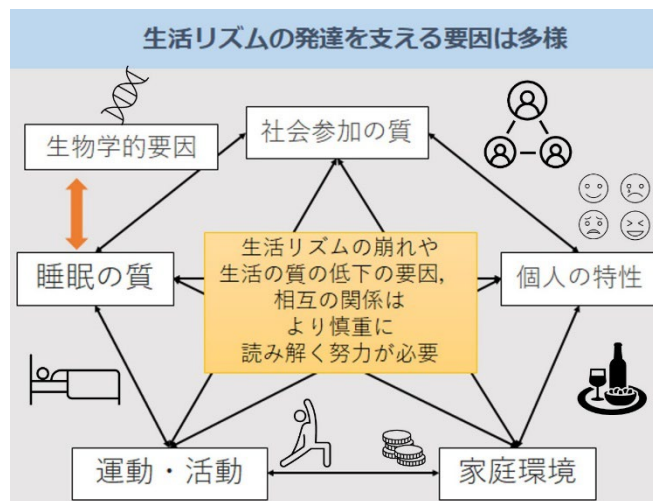
睡眠、生活リズム、発達、睡眠困難、自閉スペクトラム症

該当するSDGs



1 研究内容

学校や保育所、みなさんの職場には、睡眠がうまくとれなかったり、生活リズムが安定しない子どもや仲間が必ずといっていいほどおられます。眠りやリズムの問題の原因や背景は実に複雑です。そしてその乱れは本人の成績や心身の健康状態の悪化だけではなく、保護者の寝不足や周囲との人間関係、そして就職や経済的な損失にも影響することが知られています。特に発達期にある子どもたちや、この問題をもちやすい発達障害児者についての理解を深め、心身の健康や社会参加、そしてよりよい支援を実現することが大きな課題です。現在は、当事者、保育所・学校や保護者などと連携しながら、生理心理学的な基礎研究と発達臨床的な研究を推進しています。



2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

- ・個人や学校、企業、行政単位で睡眠や生活リズムの実態把握と改善実践
- ・発達障害児者の睡眠や生活リズムの改善支援に関する事例研究

これまでの連携実績

- ・小学校の教員と発達障害と睡眠に関する共同研究、自治体の巡回相談員
- ・福山特別支援教育研究会において、特別支援教育に関する研修会の企画立案や講演
- ・地域の親の会や福祉事業などへの専門知識の提供やゼミでの学生ボランティア参加
- ・保育所・学校・企業などで発達障害児者の睡眠や支援に関する研修会講師



保育における感情的実践

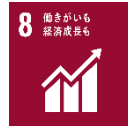
教育学部児童教育学科 教授 松尾 浩一郎

キーワード

感情、保育者、専門性

該当するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

心理学の領域で主に感情に関わることを研究しています。これまでは基礎的な研究が中心でしたが、今後は実践とつながる研究をしていきたいと考えています。

保育現場で、保育者は子どもや保護者、同僚との間でさまざまな感情を経験しています。他者や自分の感情を把握し、自分の感情をコントロールし、感情をその場に即して適切に表現できることは、保育を実践する上でも保育という仕事にやりがいを感じて働き続けるためにも必要な力であると考えられます。

保育者の方のお話を聴かせていただき、感情の側面から保育者の専門性の一端を明らかにすることができればと思っています。

2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

上記のような内容について関心がある方と共同研究できる可能性があります。

これまでの連携実績

【企業・行政・各種学校の委員等の委嘱】

福山市立大学附属こども園運営協議会委員

【講演会講師、研修会講師、公開講座講師等】

松山市主任保育士講座講師

日本産業カウンセラー協会主催産業カウンセラー養成講座愛媛教室講師

愛媛県看護協会保健師助産師看護師実習指導者講習会講師

福山市ことばの相談室保育士・幼稚園教諭講習研修講師



イギリスの公教育制度と国際社会における教育コンテンツの展開

教育学部児童教育学科 准教授 三山 緑

キーワード

イギリス、公教育制度、経路プログラム、教員養成、学校経営

該当するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

2019(令和元)年6月から半年間、イギリスでの語学研修の機会を持ったことをきっかけに、大学に附設されている語学学校(あるいはプログラム)の役割について関心を持ちました。イギリスは、日本と同様の島国ですが、自国の公教育制度に移民や留学生を巧みに包摂し、一方で自らの教育コンテンツを海外に向け積極的に展開してもきました。こうした日本とは対照的なイギリスの教育戦略とその軸となっている公教育制度について、より理解を深めることで、留学に対する素朴なイメージから一歩踏み込んだ思考を促すことができると考えています。

2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

・教育制度論や教職論といった教職科目を担当してきた関係で、学校評議員を務めた経験や、大学の教員養成カリキュラムの評価に関する研究にも関与した経験があります。そのため、学校経営や学校と地域の連携に関わる仕事や研究活動、教員養成、教員研修プログラムの充実に貢献できる可能性があります。

これまでの連携実績

- ① 共同研究、受託研究等
 - ・東京学芸大学教員養成評価開発研究プロジェクト第2期評価員
(2015(平成27)年6月～2016(平成28)年3月)
- ② 企業・行政・各種学校の委員等
 - ・下関市立一の宮小学校学校評議員(2006(平成18)年6月～2009(平成21)年3月)
 - ・中国・四国地区私立大学教職課程研究連絡協議会地区運営委員等
(2006(平成18)年4月～2010(平成22)年4月)
- ③ 講演会講師、研修会講師、公開講座講師の実績
 - ・広島経済大学教員免許更新講習必修領域「教育の最新事情」の中の「教職に関する省察」担当
(2017(平成29)年8月、2018(平成30)年8月)



子どもの自立と共生を目指す保育・授業づくり ～虚構(文学)体験の中にいつもと違う自分を見つける～

教育学部児童教育学科 教授 森 美智代

キーワード

保幼小連携、コミュニケーション、自己認識、他者理解、当事者性

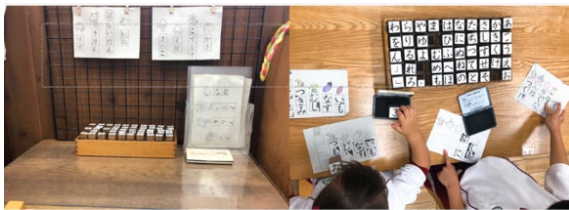
該当するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

多様な価値観が併存する社会において、子どもたちの自己表出や他者理解が難しくなっています。そうした中、虚構体験(ごっこ遊びや読書)の中での登場人物への同化・対象化体験が、自己表出や他者理解につながると考え、子どもたちの自立と共生を実現する虚構体験について研究しています。虚構世界に入ることによって子どもたちは普段とは異なる振る舞いを見せます。乳幼児期だけでなく、児童期・青年期においても、虚構世界は、自己省察と、他者との関わりを自由に想像する経験を得るための舞台となります。この舞台を保育・教育現場でいかに設えるか、日々現場の実践者と共に探究しています。



手先がまだ発達しきっていない子どもたちのためのスタンプ遊びコーナー
(文学の「形」の弁別力を育む。+日本のハンコ文化)



「ことばの教室づくりのための小さな勉強会」の様子

2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

- ・虚構世界との往還から自立と共生を目指す校種横断型教育プログラムの策定(科研 C)
- ・小学校国語科におけるデジタル端末で「深く読む」ための調査・実践研究(科研 B)
- ・学びのプロセスと日本語書記史を統合する学習内容・学習材・学習方法の開発と検証(科研 B)
- ・児童心理治療施設併設校の国語科教育カリキュラム開発に向けた基礎研究(科研 C)

これまでの連携実績

- ①上記に記載した科学研究費助成事業に関連する保育・教育現場(保育者・小中高等学校教員)との共同研究
- ②小中学校における外部評価委員、国語教科書編集委員(小中高)
- ③領域「言葉」に関する幼稚園教諭向け研修講師、国語科授業に関する小中高等学校での校内研修講師、国語科授業に関する小中学校教諭向け研修講師、PTA 主催保護者向け講演会講師(絵本、コミュニケーション力等)、高校生向け講演会講師(ジェンダー平等の実現等)



子どもの描く楽しさを考える

教育学部児童教育学科 准教授 山田 真世

キーワード 描画、ことば、身体、仲間集団、保育者

該当するSDGs



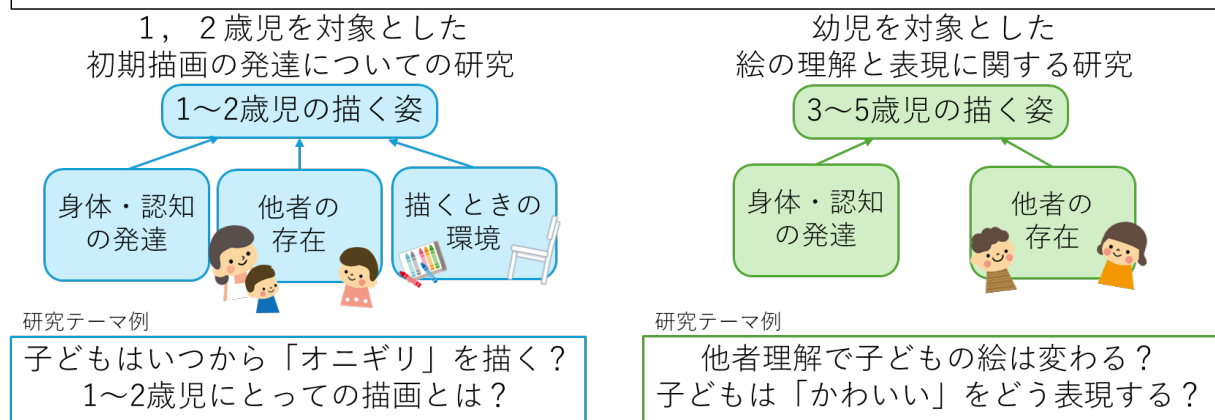
1 研究内容

描画は子どもの認識や経験、想いを聴きとることができる表現ツールの1つです。

これまで乳幼児期を中心に描画の発達とその発達に関わる要因について、以下に示したような調査を保育現場やご家庭のご協力をいただき進めてきました。研究から、描画の発達のな変化が明らかになってきたと同時に、子どもたちはさまざまな方法で描画を楽しんでいることや、子どもたちの描画を支えている保育の専門性が見えてきました。

今後は、調査結果でわかってきたことを踏まえて、描画をはじめとする造形活動に関して調査研究や実践と関わりの深い研究も行っていきたいと考えています。

これまでの研究のまとめ



2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

- ・上記のような内容について興味がある方と共同研究できる可能性があります。

これまでの連携実績

- ・講演会講師、研修会講師、公開講座講師の実績
- ・全国保育問題研究会美術分科会における世話人
- ・大阪保育運動センター主催の年齢別保育講座「3歳児クラスの保育—発達と保育の課題—」講師
- ・福山市主催のネウボラ相談員養成研修「乳児期の生活と遊び」講師
- ・福山市保健福祉局児童部保育課・ふくやま子育て応援センター主催の障がい児保育・特別支援教育講演会「気になる子どもとその支援 —幼児期の描画をとおして—」講師
- ・香川県三豊市就学前教育・保育推進研究事業の乳幼児理解現場研修会にて指導助言者(アドバイザー)



地域小学校等への理科教育支援の在り方

教育学部児童教育学科 准教授 山中 真悟

キーワード 理科教育、地域支援、プログラミング教育

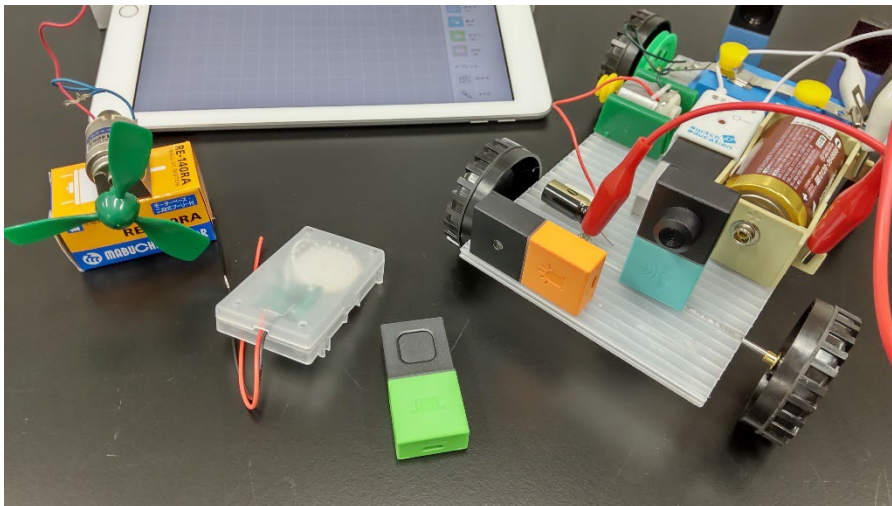
該当するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

理科教育における授業づくり、教材開発等をテーマに研究を行っております。最近では小学校でプログラミング教育が必修化されたことを受け、地域小学校の理科プログラミング教育への支援の在り方について、実践協力をいただきながら模索しております。



2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

- ・上記のプログラミング教育に関する事のほか、理科教育に関する悩みや実現してみたいアイデアについて、先生方のお声を聞かせていただけると幸いです。一緒に考えていければと思います。

これまでの連携実績

- ・市内小学校での校内研修会講師



子どもの身体知の蓄積と開発の提案

—優れた指導者に頼らず環境の持つ可能性を模索します。—

教育学部児童教育学科 教授 山西 正記

キーワード

動きづくり、学習の場、コーディネーション能力の開発

該当するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

子どもの動きを開発する・刺激する環境変数について研究をしています。子どもたちが活動している空間を例にすれば、その空間に何気ない遊具や教具を一つ加えるだけで、子どもの活動の仕方(環境との関わり方)が変わります。また、その空間に呈示する音響 BGM のテンポや音色を変えるだけでも、子どもの身体活動量や学習頻度に変化が生じます。昔は、野山を駆け回り、木登りや泥んこ遊びに興じる中で、身体の上手な使い方を獲得していたとされています。私たちの身体がエコロジカルなシステムとして環境と密接に関わりをもって動きが学習されているとするなら、現在の子どもたちの不器用さは近代化を推し進めてきた我々大人の責任なのかもしれません。



2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

1. 子どもの動きづくりに資する学習環境や活動空間の構想と検証(運動の質と学習)
2. 子どもが動きたくなるような学習内容(教材)の提案と検討(身体活動量と意欲)

これまでの連携実績

1. 福山市体育振興事業団 福山市スポーツ指導者養成講習会『スポーツ指導方法論』:講師
2. 福山市小学校学区における少年スポーツ指導者を対象とした研修会:講師
3. 福山市学校教育研究団体連絡協議会 中学校保健体育研究会 第二回部会:研修会講師



障害のある子どもの歴史を探る

～地域の障害児教育・福祉史を共に探求しましょう～

教育学部児童教育学科 准教授 吉井 涼

キーワード

障害、特別支援学校、障害児者施設、歴史、インクルーシブ教育

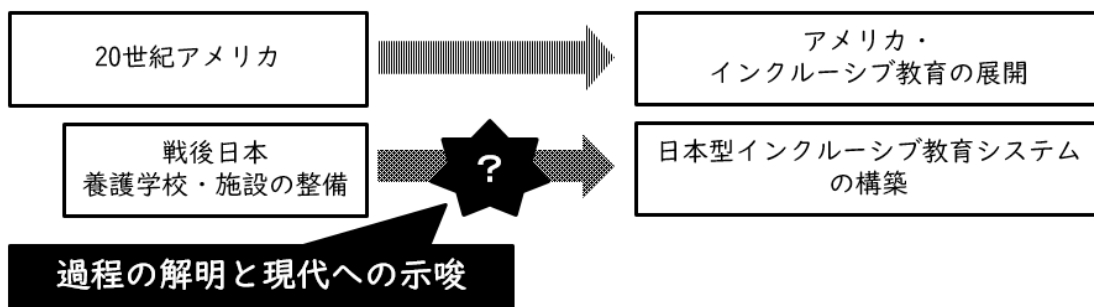
該当するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

インクルーシブ教育の本質と実態について、歴史的文脈からの詳細な検討が必要であるという認識に立ち、アメリカ合衆国の障害児教育史研究を行ってきました。近年では、そこから発展させ、戦後日本の障害のある子どもの教育や福祉の歴史に関する研究に着手しています。障害のある子どもに関して、国や大都市を対象とした歴史研究は多く積み重ねられてきていますが、広島県や福山市における歴史研究はほとんど未開拓の分野です。現在は、福山市内の特別支援学校や障害児者施設に関する歴史文書の発掘と整理を行っています。



2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

- ・特別支援学校の歴史からみる障害のある子どもの教育
- ・障害児者施設の歴史からみる障害のある子どもの生活

これまでの連携実績

- ・広島県立福山特別支援学校と広島県立福山若草園の歴史研究
1967年設立の広島県立福山特別支援学校(設立時名称:広島県養護学校福山分校)と、1962年設立の広島県立福山若草園(設立時名称:広島県立若草園福山分園)の歴史を調査。福山市における肢体不自由児、重度・重複障害児の生活・教育・医療の解明を目指しています。



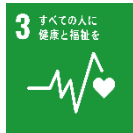
児童養護施設と発達障害に関する研究

教育学部児童教育学科 准教授 吉田 耕平

キーワード

児童養護施設、発達障害、ADHD

該当するSDGs



1 研究内容

1990年代から2000年代にかけて、日本国内でも自閉スペクトラム症や注意欠如多動症といった「発達障害」の診断を受ける子ども(大人も含む)の数が増加し(図1)、この「発達障害」をめぐっては、教育学や心理学、社会福祉学などの分野でさまざまな議論がなされています。

私は医療社会学の視座から、なぜ2000年代頃から、日本国内で「発達障害」が拡大しはじめたのか。特に、「ADHD」の診断を受ける子どもが増加している児童養護施設を中心に(図2)、どのような経緯で「障害」の診断が付与され、薬物治療に至っているのか研究を行っています。

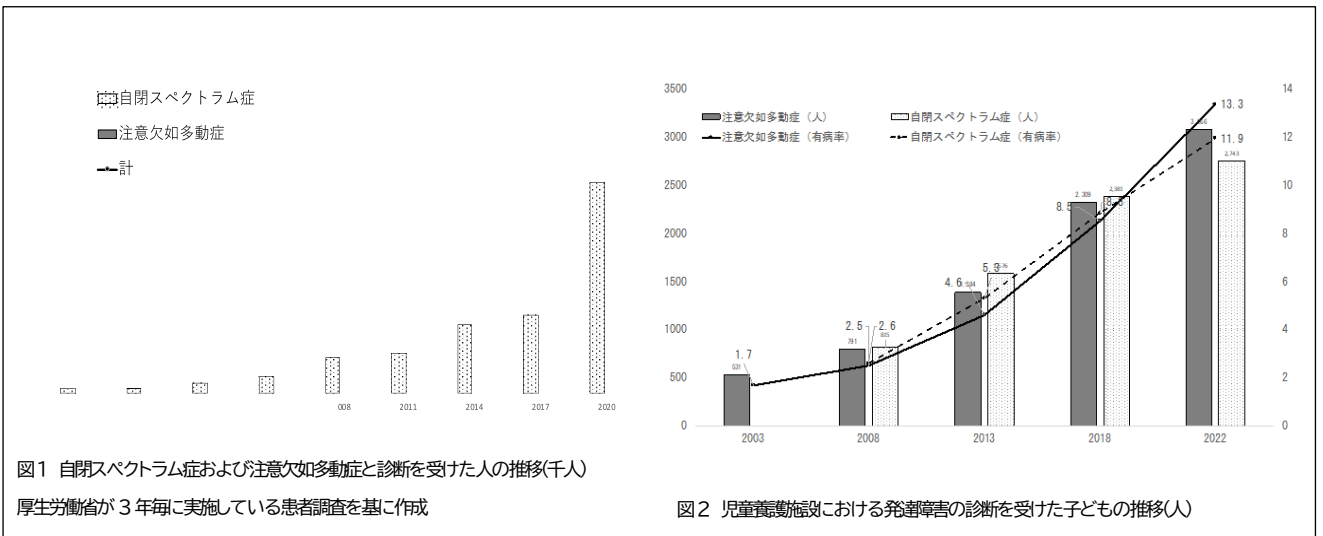


図1 自閉スペクトラム症および注意欠如多動症と診断を受けた人の推移(千人)
厚生労働省が3年毎に実施している患者調査を基に作成

図2 児童養護施設における発達障害の診断を受けた子どもの推移(人)
厚生労働省が5年毎に実施している児童養護施設入所児童等調査を基に作成

2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

・児童養護施設や教育機関との連携および共同研究を希望します。

これまでの連携実績

- ・高等学校の探究学習に係る講師
- ・高等学校のキャリアデザインとして出張講座
- ・私立幼稚園教育研究会(研修会講師)
- ・保育補助者養成セミナー(担当:社会的養護)
- ・教員免許更新講習(専門領域:児童福祉分野)

問合せ先 福山市立大学事務局総務課(地域連携センター)

TEL:084-999-1112 FAX:084-928-1248 MAIL:renkei@fcu.ac.jp



豊かな多文化共生地域づくりと外国人市民への子育て支援

教育学部児童教育学科 教授 劉 郷英

キーワード

外国人家庭への育児相談・教育相談、子どもへの言葉の発達支援、絵本講座、国際交流、中国語・中国文化講座

該当するSDGs

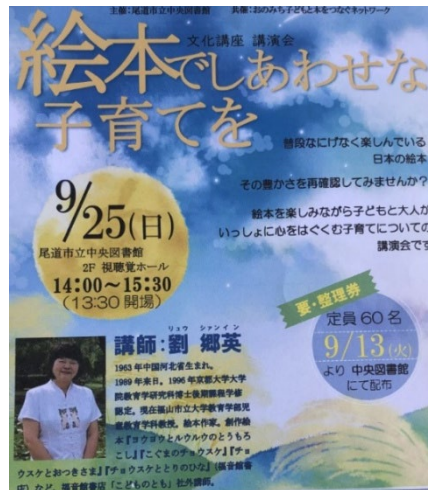
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

①日本に長期滞在している外国人研究者として、長年教育・保育分野における国際比較研究と、日本における多文化教育・保育の在り方や、多文化・多言語環境で育っている子どもたちへの言葉の発達と教育支援に関する実践研究などを行っている(例えば、日本語の力が弱い外国人の子どもに対して、日本語学習支援に関するアクション・リサーチを行っている)。②外国人市民として、地域住民と一緒に様々な国際交流活動を行っている(例えば、市民団体が主催する「外国人日本語絵本読み語りコンクール」の審査委員長など)。③絵本作家として、幼稚園・保育園・認定こども園・公民館・図書館などで、子育て支援のための絵本講座を開催している。④中国語・中国文化講座の開催。

過去に開催した講演会のポスター



2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

私は、外国人の子どもをはじめとする多文化・多言語環境で生活している子どもの言語発達と教育に関する研究をしており、多文化教育・多文化保育・多文化育児・バイリンガル教育・乳幼児の言語発達と教育に関する研究に興味がある方と共同研究できる可能性があります。

これまでの連携実績

- ・福山市協働のまちづくり協議会協議員
- ・福山市外国人児童生徒等指導体制の推進に係る協議会委員
- ・福山市多文化共生地域連絡協議会委員

◎市立福山高等学校模擬授業講師◎福山市公立保育所等施設長研修会講師◎福山市公立保育所等主任及び保育者研修会講師◎尾道市立中央図書館文化講座講演会講師など

問合せ先 福山市立大学事務局総務課(地域連携センター)

TEL:084-999-1112 FAX:084-928-1248 MAIL:renkei@fcu.ac.jp



毎日の保育実践を捉える視点の提案

～保育環境から考えてみませんか～

教育学部児童教育学科 講師 渡邊 真帆

キーワード

保育実践、保育環境、カンファレンス、質的アプローチ

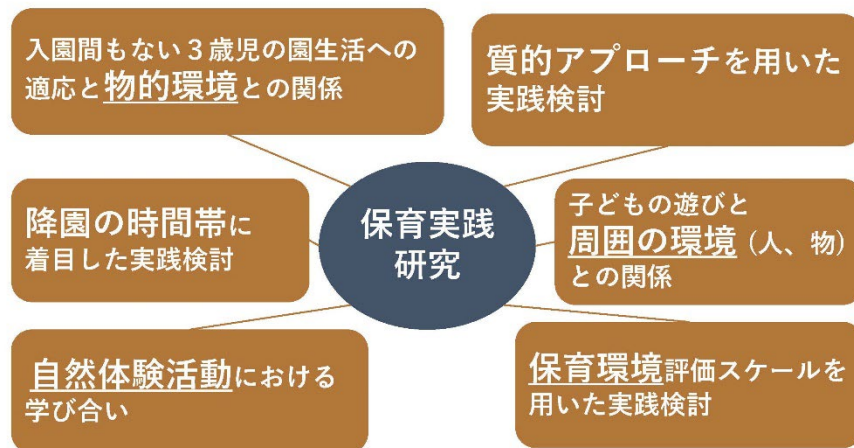
該当するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

子どもたちは、園生活の中で、先生や友達、遊具や自然、文化などの様々な環境に触れ、かけがえのない経験を積み重ねています。そういった毎日の保育実践を、日々の営みを言語化することを目指して研究に取り組んできました。また、園所を訪問させていただいて先生方とカンファレンスに取り組んできました。これらの中で、子どもの経験をより広く捉え、理解をより深めるために、とりわけ子どもたちを取り囲む保育環境の視点から、あるいは保育環境に着目して保育実践を検討することを試んでいます。



2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

1. 実践をもとにした園内研修などの支援

【提案】

- ・保育環境の写真を用いた語り合い（例：お気に入りの場所の写真、変えたいと思っている空間の写真など）
- ・実践映像を用いた語り合い（例：特定の遊びや環境に着目した検討、子どもに着目した検討など）

2. 園所訪問と保育の振り返りの支援

- ・第三者の目が欲しいけれど、いわゆる“研修”は少し気が張るかも…という場合は、短時間でも伺います。例えば、クラスを限定、園庭だけなど場所を限定して様子を参観させていただき、一緒に保育の振り返りをすることが可能です。

AR 技術を活用した作業効率の向上

～スマートグラスを用いた AR 技術による作業効率化を実現します～

都市経営学部都市経営学科 教授 石尾 広武

キーワード

スマートグラス、AR(拡張現実)、作業効率、DX(デジタルトランスフォーメーション)

該当するSDGs

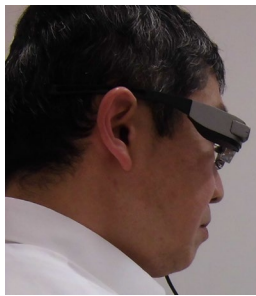
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

昨今、経済産業省が推進する DX(デジタルトランスフォーメーション)では、新たなビジネスモデルの創出だけでなく、デジタル技術を用いた従来型業務の効率化や生産性の向上なども重要なテーマになります。両眼シースルー型スマートグラスを用いて実現される AR(拡張現実)技術を使って、現実世界の視野にデジタル情報を重ね合わせることで、工場などでの作業効率が向上する可能性があることを、経路探索実験で検証しました。

経路探索実験のイメージ



①	19	29	57	59	19	29	37	87
30	46	66	47	33	69	83	57	97
55	91	18	9	48	23	35	97	8
7	95	90	5	3	53	43	37	96
59	26	4	70	17	71	38	17	94
25	72	84	89	21	73	64	37	22
29	42	92	7	78	86	62	97	79
67	11	6	7	24	51	77	77	75
16	88	44	97	29	44	82	56	65

2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

- ・工場等での作業効率化
- ・企業の DX 推進の支援

これまでの連携実績

- ・2019 年度福山市受託事業「備後圏域におけるベンチャー創出支援業務」への参加



都市における空き家・空き地の現状とその社会的活用の可能性

都市経営学部都市経営学科 准教授 大谷 悠

キーワード 空き家、空き地、まちづくり、ドイツ

該当するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

計画や不動産市場から「見放された空間」としての空き家・空き地が、地域住民の居場所、移民・難民の社会的統合、新たな文化・芸術・食の発信拠点、子どもの遊び場など、多様な人々を包摂する社会的な役割をもつ空間へと発展する可能性について、研究と実践の両面から探っている。具体的なフィールドはライブツィヒ(ドイツ)、尾道(日本)、トビリシ(ジョージア)などであり、都市計画、建築、都市社会学、地理学、哲学、ネットワーク理論、民俗学など、まちづくりに関連する幅広い分野を横断しながら、学際的な視点をもって研究を行っている。



2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

これまでの連携実績

- 尾道の山手に立地する古民家を改装したまちづくり拠点「迷宮堂」との連携
- ドイツ・ライブツィヒのまちづくり拠点「日本の家」との連携
- ジョージア(グルジア)・トビリシのまちづくり拠点「UZU HOUSE」との連携



地域の防災力を高めるための支援活動

都市経営学部都市経営学科 教授 加藤 誠章

キーワード

災害、防災、対策、地区防災計画

該当するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

土砂災害に対する防災事業に関する調査・計画・設計に実務家として携わった経験を活かし、災害・防災を対象として、物的なメカニズム、行政の施策、住民の対応といった多面的な要素が影響することを意識しながら、研究・教育活動を行っています。

学術的な研究分野は主に砂防工学になりますが、行政に対しては有識者として関連分野における助言等を行っています。また、学生の卒業研究においては、地区防災計画、地域の防災の取り組み等、災害・防災に関連する広範なテーマを対象とした教育・指導を行っています。

2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

- ・学生が主体となる地区防災計画の策定支援等の活動
- ・各種防災事業等に関する助言
- ・災害全般に関するデータ分析

これまでの連携実績

①共同研究

崩壊・土石流跡地の植生回復に関する研究(東広島市)
災害に強い森づくりに関する研究(福山市)

②企業・行政等への助言等

国:広島西部山系砂防基本計画技術検討会委員等

県:広島県総合計画審議会委員、広島県森林審議会委員(森林保全部会長)、広島県地震被害想定調査検討委員会委員、広島県土砂災害対策アドバイザー、広島県道路防災ドクター等

市:府中市都市計画審議会委員、府中市都市再生協議会委員、福山市災害に強い森づくり事業推進懇談会委員、広島市都市計画審議会立地適正化計画専門部会員、その他各種事業に関する助言・評価委員(福山市:農林整備課、上下水道計画課、港湾河川課、保健所保健予防課、府中市:都市デザイン課、上水下水道課、環境整備課等)等

企業等:砂防施設配置計画立案に関する技術指導、技術審査等

③公演会等

広島県防災 DVD への出演等



地域・コミュニティ開発への公的・共同的サポートのあり方

～条件不利地域における制度的・共同的サポート制度を探求します～

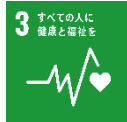
都市経営学部都市経営学科 教授 金 淳植

キーワード

地域開発、コミュニティ開発、社会的経済、連帯経済、条件不利地域活性化

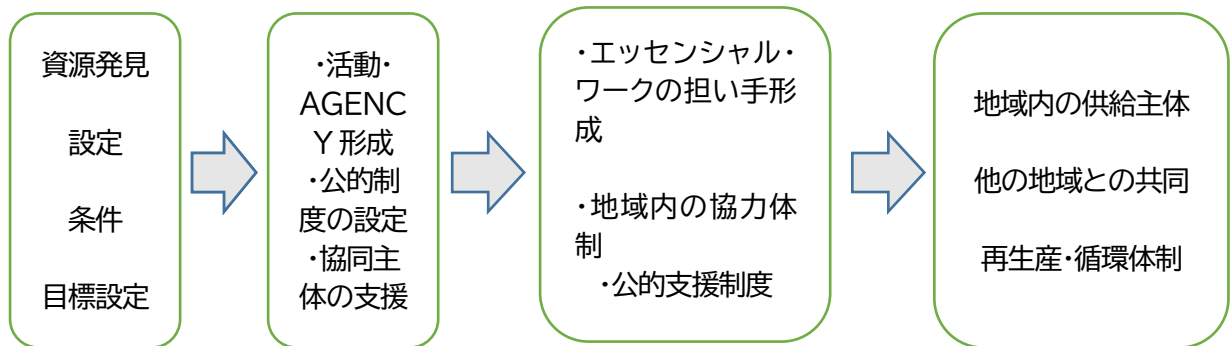
該当するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

地域開発は、地域が主体として総合的な目標と多用な方法を用いて、その結果得られる利得を地域内に還元・循環させる過程を言います。これに至らない地域やコミュニティも多数存在しているのが現実です。今までは各地における疲弊したコミュニティの開発、経済的・社会的に不利な条件を抱えている地域における主体的な開発のあり方を探っています。エッセンシャル・ワークを基軸とした雇用促進と経済的自立のサポートの事例、制度的な認証をえたコミュニティ金融機関の活動による地域内のサポートネットワークの構築、社会的経済を基軸とした社会サービスの供給体系の共同的な再構築などのやり方や社会的な可能性を探求しています。



2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

- ・中山間地域における協同組合の構築支援
- ・疲弊したコミュニティの再活性化へ向けた長期的な支援体制の構築
- ・地域主体の地域開発への取り組み例の正式化と意義づけ

これまでの連携実績

- ・自治体を超えた広域地域の自主開発政策の作成と提言(韓国の南部地域)
- ・ニート青年らの協同組合作業を通して社会的・地域的価値の向上プロジェクトに参加
- ・アメリカ・イギリスの社会的金融機関の活動調査・研究
- ・公害被害患者の支援・復帰のためのコミュニティ活動へ参加



地域のフードシステムの診断と 食品関連事業者、行政部門における課題共有 ー地域圏食料プロジェクトの構築を目指してー

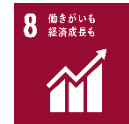
都市経営学部都市経営学科 教授 清原 昭子

キーワード

地域食料政策、地域圏フードシステム、全ての人のためのフードセキュリティ、暮らしやすい地域、食料経済

該当するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

地方都市とその周辺地域における食料政策についての研究を進めています。FAO が提唱するフードセキュリティの観点から、平時において、安定的に食料を住民に「届ける力」の重要性が指摘されています。平時のフードセキュリティの確保のためには、地域圏の実情に沿ったフードシステムの強化が求められますが、そのためには一次生産から消費にいたる地域のフードシステムの診断が必要です。

当研究室では、農林漁業、食品製造、卸売、小売、消費に至る定性的、定量的な実態把握(診断)を行うことで、地方自治体内での課題認識を進め、さらに地域圏食料プロジェクトの中心的役割を担える組織や事業者を発掘していきます。以上を通じて、福山市が中央卸売市場を持たない自治体におけるモデルづくりの嚆矢となることを目指します。

2 連携可能性のある研究分野, 又は, これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

- ・福山市における課題認識に至るために必要な以下の実態調査
食品関連事業者に関するヒアリング調査、統計解析、事業特性、経営状態、後継者の有無の把握
- ・専門職業者によるラウンドテーブルを囲んだ意見および情報交換の実施。
想定される事業者:市内農家、県内農家、地域事業者(地元資本)であるスーパーマーケット、食品製造業者など
- ・福山市の行政内部における関係各部署のヒアリング調査および連携の模索
想定される部署:農業、食品産業、商業、健康福祉、子ども子育て、学校教育に関連する部局
- ・福祉、教育、まちづくり

これまでの連携実績

- ・農業経済学・フードシステム研究者と農林水産省職員有志による共同調査・研究
「地域食料ビジョン研究会報告書」(令和4年4月)
農林水産省大臣官房新事業・食品産業部企画グループWebサイト内にて公開中
https://www.maff.go.jp/j/shokusan/kikaku/chiiki_shokuryo.html



都市を見つめ課題の本質を読み解く

—住宅を軸に、縮小過程にある都市や地域のフレキシビリティについて考える—

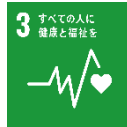
都市経営学部都市経営学科 教授 久保園 洋一

キーワード

都市計画、建築計画、住宅政策

該当するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

縮小局面に入ったわが国では、まずは地方圏から人口減少が進み、高齢者・高齢単身世帯の増加に伴う生活維持や、世帯数減少・若年層流出に伴う地域の担い手不足などが対応すべき課題となっています。こうした課題に対し、人口・世帯数減少の過程で余剰する建築ストックを柔軟に活用し、世代間バランスを図ることや足りないサービスを補うことで地域の持続性を高めることを主題に研究を続けています。

高度成長期に開発され同世代が一斉入居したことで現在は高齢化が進んだ大規模開発団地や、福祉的な政策を通じ居住者の多くが高齢者となった公営住宅団地など、大都市圏にありながら既に課題が顕在化した住宅団地を対象に、全国に及びつつある高齢化・世帯数減少も意識した汎用性ある対応を探るものです。関連して増加傾向にある外国人(2015-2020、五年間の国全体の日本人減少 178 万人に対し外国人増加は 83 万人)について、住宅地における共生に関する研究を進めています。

また、自治体、博覧会協会などで新庁舎の計画策定、集合住宅、学校、美術館や博覧会施設の建設などを担当してきました。



2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

- ・都市や地域に関する計画づくりへの支援
- ・公共性が高い施設や建築に係る意思決定等に係る支援

これまでの連携実績

- ・地域住民、自治体、大学間連携による地域活性化を目的とした公営住宅の学生居住
- ・自治体、大学間連携による住宅団地再生に関する取り組みや共同研究

問合せ先 福山市立大学事務局総務課(地域連携センター)

TEL:084-999-1112 FAX:084-928-1248 MAIL:renkei@fcu.ac.jp



現在・未来の計画にもつながる、 地域の社会＝空間構造の歴史研究

都市経営学部都市経営学科 准教授 小島 見和

キーワード

都市史、建築史、文化遺産、文化的景観、地域文化

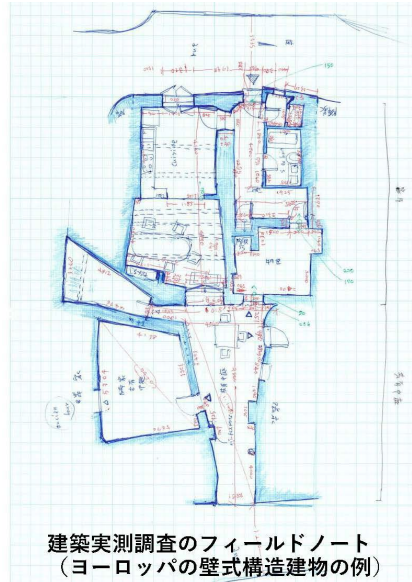
該当するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

学術的専門分野は都市史・建築史です。これまで主に、南フランスやオランダなどの都市と周辺領域の関係の歴史を、フィールドワークと文献史料によって研究してきました。ヨーロッパの文化遺産を活かす都市・地域デザインについての知見をもとに、瀬戸内地域の社会(地域共同体、農林水産業、伝統的手工業などの産業)と、空間(建築物、道や水路などのインフラ、地質や地形など)の関係・構造を読み解く研究に取り組み、多様な地域住民に還元し、地域アイデンティティの再形成、これまで意識されていなかった文化遺産を活かす可能性の認識などを促し、これからの都市・地域デザインに貢献することを目指します。



建築実測調査のフィールドノート
(ヨーロッパの壁式構造建物の例)



小学校のまちづくりクラブ
(大阪府の公立小学校での協力例)

2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

・空間の文化的価値を分析すること、また今後のデザイン提案の基本情報を得ることを目的とした、建築物・街区全体の実測を含む調査・図面化に協力することが可能です。

例:取り壊しが検討されている旧家の建築調査、商店街の再活性化を考えるための現状調査など

・文化的景観(長い時間をかけて人間活動が自然に手を加えることで形成されてきた景観)の研究に、都市史・建築史の観点から携わることができます。

これまでの連携実績

・大学公開講座の講師

・小学校のまちづくりクラブ(大学生・大学教員・行政職員・小学生が、クラブ活動の一環として地域の環境・歴史・産業などを外に出て調査し、課題を発見し、それを解決するデザインを考える活動)



風穴の観測研究と地域資源としての活用

都市経営学部都市経営学科 教授 澤田 結基

キーワード

風穴、養蚕、地域資源の活用

該当するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

「風穴」は夏～秋に冷たい風を吹き出す穴、あるいは冷風を利用した冷蔵倉庫のことを指し、明治・大正時代にはカイコの卵の貯蔵に使われ、日本の主要産業であった製糸業を支えていました。近年、風穴の価値が見直され、観光資源として、あるいは日本酒や農産物に付加価値をつける天然の貯蔵庫として再活用されています。私はこれまで風穴のしくみの解明に取り組み、岩の隙間に氷が成長することで冬の寒さが蓄積され、夏に涼しい環境が生まれることを明らかにしました。こうした観測を、北海道、群馬、島根などの地域と協力して継続しています。風穴は各地で天然記念物やジオパーク、世界遺産などに位置づけられており、保全と活用が期待されます。

2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

- ・風穴には地域の気候よりも寒冷な気候に適応した生態系が出現することがあり、植物・動物生態学分野との共同研究を希望しております。
- ・地域貢献として、地域の風穴の観測や産業との関連を調べることで、地域資源の発掘につながり、教育や観光への活用が期待されます。

これまでの連携実績

- ・とちぎ鹿追ジオパーク推進協議会委員(風穴をメインテーマとするジオパークの運営に参画)
- ・福山市文化財保護審議会委員
- ・三原市文化財保護審議会委員



持続可能な水循環・水環境システムを構築するためのマネジメントと技術

都市経営学部都市経営学科 准教授 清水 聡行

キーワード 上下水道、水環境、持続可能、人口減少

該当するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

上下水道分野を中心に幅広く研究してきました。もともとは水需要予測(家庭内の水利用)や上下水道計画について研究してきましたが、水処理技術(酸化処理を用いた難分解性有機物の除去・生分解性の向上など)も研究してきました。

人口減少が進む我が国において、どのような水供給システムや水循環システムが持続可能なのか検討しています。開発途上国の水供給や水環境についても研究を行ったこともあります。

2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

- ・人口減少下における持続可能な水供給システム
- ・水処理技術の適用可能性
- ・水環境の評価

これまでの連携実績

- ・複数の上下水道事業の審議会などの委員を務めています。
- 前任の堤名誉教授から引き継ぎ、福山市上下水道局と共催で備後地域9市町と水道事業における広域化・官民連携の勉強会を定期的を開催しています。



成熟社会における持続可能な ランドスケープの創造と実践

～都市における「みどり」に係る研究と実践を地域社会に還元～

都市経営学部都市経営学科 助教 高野 健人

キーワード ランドスケープ、公園緑地、街路樹、都市農地、土地利用マネジメント

該当するSDGs

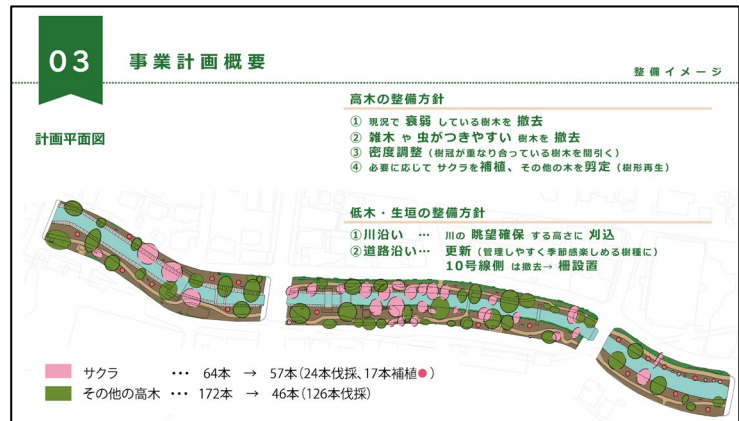


1 研究内容

私の専門分野はランドスケープです。公園緑地や農地などのミクロな視点、景観や自然環境、都市・地方計画などのマクロな視点の双方に目を向けながら、研究と実践に取り組んでいます。

整備から数十年が経過し、施設の老朽化や植栽が想定以上に繁茂することで利用に支障をきたしている公園緑地や街路樹の再生への関与、未活用の行政財産について、ランドスケープの観点から地域住民の生活に役立つ活用方法の提案を行ってきました。

また、人口減少が進む成熟社会において最も空間の変化が大きいのは、非集約エリアと呼ばれる市街地郊外の自然環境と都市的環境の混在するエリアです。地域の衰退と土地利用の混乱により、景観や自然環境の劣化が進行し、近年は災害リスクも高まっています。こうしたエリアにおけるランドスケープのあり方について注目しています。



整備から数十年が経過した都市緑地の再整備計画策定



行政財産の利活用



文化的景観と災害リスク

2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

- ・協働によるパブリックスペースの計画・デザイン・マネジメント
 - … 公園や緑地等の都市におけるパブリックスペースを再生・創出するに当たって、市民や行政、企業との協働による計画策定やデザイン、マネジメントに関する勉強会や支援が可能です。
- ・非集約エリアにおけるランドスケープの保全・再生・創出
 - … 安全かつ安定した食糧や森林資源、再生可能エネルギーの供給源、生物多様性を育む里地里山などの非集約エリアが有する価値の再評価や創出に関する勉強会や支援が可能です。
- ・農住混在市街地(特に市街地縁辺部)における土地利用マネジメント
 - … 既成市街地の衰退と市街地縁辺部のスプロールが無計画に生じ、都市の縮退と膨張が同時進行する事態が生じています。スプロールの抑制と緑地環境の管理に関する勉強会や支援が可能です。

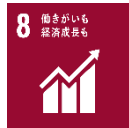


地場産業の存立と地域

都市経営学部都市経営学科 准教授 塚本 僚平

キーワード 地場産業、労働者、地域社会、価値

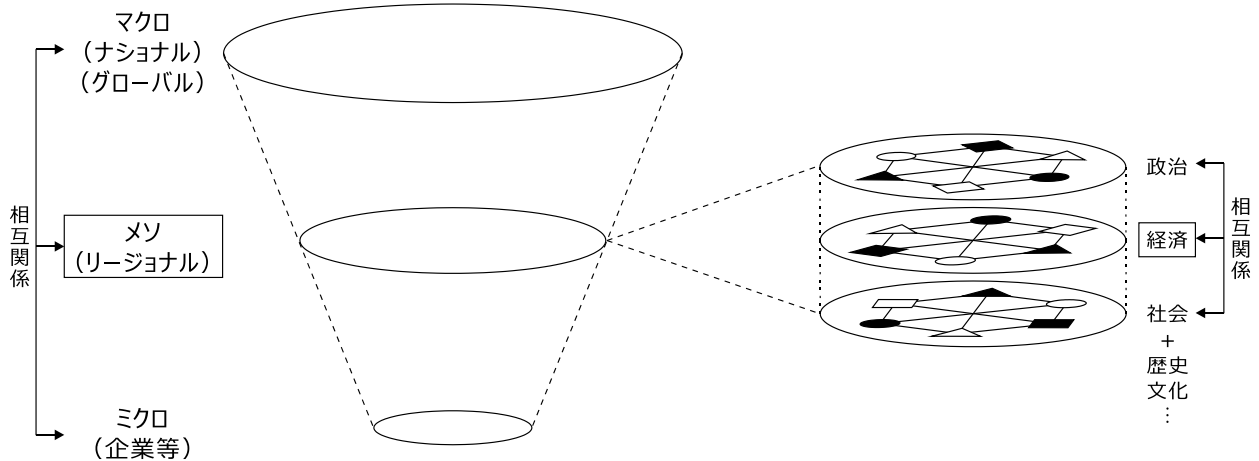
該当するSDGs



1 研究内容

地場産業は、同業種に属する企業群が地域的に集積した状況において、工程間分業によりながら特産品等を産出するものとして定義される。そのため、一義的には地域的な営為として捉えられ、地方創生が喧伝される今日にあっては、その活性化が求められることも多い。ただし、地場産業は多様な空間スケールにおける出来事の影響を避けられないばかりか、経済以外の領域とも不可分な関係にある(概念図を参照)。こうした点をふまえつつ、地場産業の存立基盤について経済的な視角以外からも分析するとともに、労働者や地域、住民にとって産業がいかなる意味や価値を有しているのかといった点について研究している。

【マルチスケール・ジオグラフィと地域の多層性に関する概念図】



2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

- ・産業や企業に関する資料を提供いただくことができれば、当該産業の沿革等を提示できる可能性があります。
- ・地場産業に関する研究に関心がある方と共同研究できる可能性があります。



経営活動による持続可能な地域活性化の探求

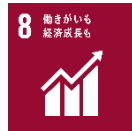
都市経営学部都市経営学科 教授 辻 紳一

キーワード

地域コミュニティ・地域活性化、道の駅、まちづくり、商店街活性化、中小企業経営

該当するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

地域活性化の実務家として、商店街活性化の支援、振興組合や事業協同組合等の事業計画支援、民間の創業計画支援や商業相談などに携わった経験をもとに、経営活動と地域活性化の繋がりを意識した研究を行っています。地域の現場で実践し、理論に立ち返って振り返り、次の実践に活かす、理論と実践を往還させる取り組みを重視しています。学術分野では、経営学と地域コミュニティ・地域活性化の研究を専門とし、地域商業(地域商店街、道の駅、事業組合等)の持続可能性に関する研究を実践しています。



2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

・経営活動と地域活性化の繋がりに着目した地域商業の持続可能性に関する研究をしており、地域を支える地域商店街、事業組合、道の駅等に関心のある方と共同研究できる可能性があります。

これまでの連携実績

- ・商店街組合等に関する活性化支援(大阪府オンリーワン商店街創出事業、地域商店街活性化事業、大阪府地域連携型商機能強化モデル創出事業、大阪府組合等事業向上支援事業:ビジョン策定・事業計画策定等)
- ・経営革新・創業に関する経営相談(経営改善・販売促進等の助言、事業者経営指導、新規事業の企画・推進、経営計画の策定支援等)
- ・商工会議所・市役所・中小企業等における教育研修の講師(「経営計画作成研修・個別相談会」、「地域共生社会の推進方法」、「新入社員研修」等)
- ・高等学校での模擬授業・講座等の講師(「グループワークを楽しもう」等)
- ・大阪市指定管理選定委員、大阪市区役所住民情報業務等委託事業者選定委員、大阪市北区課外学習事業キタ塾事業者選定委員、大阪市福島区課外学習事業事業者選定委員、大阪市阿倍野区新たな地域資源コミュニティ事業・コミュニティ育成事業委託事業者選定委員
- ・道の駅アリストぬまくま あり方懇談会委員、広島県立戸手高等学校 学校運営協議会会長など



空きキャパシティの利活用

都市経営学部都市経営学科 教授 根本 修平

キーワード

空きキャパシティ利活用、ビジョン策定、小さな拠点、公共的

該当するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

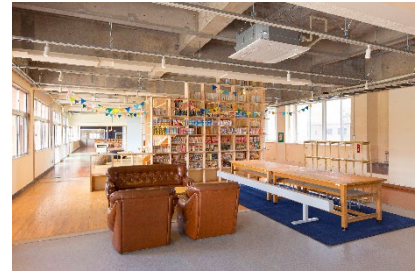


1 研究内容

空き家や廃校などの空き公共施設のほか、歩道や公園といった未利用空間の利活用について研究しています。対象の現況を把握し、その地域の「これから」と対照して利活用について検討します。多くの場合は、「公共的」な利活用が志向されるため、地域や行政の方々との対話（コミュニティ形成）を通してビジョンを模索し、この過程の中で具体的に利活用するための運用方法なども合わせて検討します。一連の過程を論文などにまとめて社会に還元していますが、実際に場所を形成するなど、具体的に利活用することを目標として取り組んでいます。



塩や(空き家の利活用)2017



きららの楽校(白男川小学校跡利活用プロジェクト)2018



道の駅舞ロード IC 千代田トイレ改装 2018



まちよーる(歩道空間利活用、木質交流スペース)2022

2 連携可能性のある研究分野, 又は, これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

・地域の将来を考える分野のほか、福祉的な視点で生活を考える分野などと連携できます。

これまでの連携実績

- 1)塩や、2017年、NPO・地域住民と連携、南九州市で空き家を観光拠点施設として再生
- 2)きららの楽校、2018年、さつま町・地区住民と連携、閉校した小学校の利活用を住民参加WSを通して小さな拠点として再生・管理運営
- 3)道の駅舞ロード IC 千代田トイレ、2018年、広島県・北広島町・地域住民と連携、利用調査と住民参加WSを通して公衆トイレを更新
- 4)まちよーる、2022年、民間事業者・福山市と連携、社会実験をもとに歩道内に木質交流スペースを整備
- 5)まちの赤ちゃん休憩室、2024年、民間事業者・地域住民と連携、調査に基づいて空き店舗を授乳室に再生



地域活性化と環境保全の地域経済分析

都市経営学部都市経営学科 教授 長谷川 良二

キーワード

地域活性化、環境ビジネス、産業連関分析、環境・経済分析

該当するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

環境経済学や地域経済学を学術的な土台として、環境問題やそれに関連する(特に地域レベルの)社会経済問題を研究しています。具体的な分析手法としては、主に産業連関分析という手法を用いて研究をしています。この産業連関分析は経済効果の計測によく用いられることが多く、経済効果を計測する手法を応用して様々な環境負荷の発生や環境対策の効果などを分析しています。経済効果と環境問題は一見すると無関係のように思えますが実は非常に密接に関係し合っています。この点に注目して、経済と環境が両立しうるような環境対策や地域活性化などを考えることが私の研究テーマです。



2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

- 1) 地域活性化・地域貢献の定量評価
- 2) エネルギー・廃棄物分野における環境対策の策定

これまでの連携実績

- 1) 広島県福山市廃棄物減量等推進審議会委員
- 2) 福山市市民局まちづくり推進部世界バラ会議推進室との連携による、2025年世界バラ会議の経済効果試算事例
- 3) 福山シティフットボールクラブとの連携による、スポーツビジネスによる地域経済効果創出に関する研究



種々の運動、環境におけるヒトの生理学的変化 (熱中症予防に着目して)

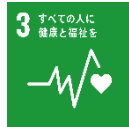
都市経営学部都市経営学科 准教授 林 聡太郎

キーワード

運動生理学、環境生理学、体温、熱中症、脊髄損傷

該当するSDGs

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

専門は、運動生理学の「体温」です。さまざまな運動時や環境曝露時における体温動態と熱中症予防について研究を行っています。運動をしている時、暑熱環境にさらされている時、ヒトの体温調節機能が正常であっても体温は上昇します。過度な体温の上昇は、熱中症を惹き起こしますし、スポーツ場面であれば、運動パフォーマンスは低下してしまいます。スポーツ場面では、積極的な身体冷却を行うことによって、深部体温の上昇を抑制させることが行われています。深部体温を低下させる方略は、体内から冷却する体内冷却と、皮膚外部から冷却する体外冷却があり、その効果や方法は数多くあります。子どもから高齢者、身体的障害者の体温調節機能について研究し、運動パフォーマンスの向上や熱中症予防へのより良い対策を考えています。

これまで、体温調節障害を有する脊髄損傷者の体温動態や、日常生活場面における熱中症予防の方法を頸椎損傷の方と一緒に探ってみたり、大学生アスリートを対象として、暑熱環境下での積極的な身体冷却による運動パフォーマンスへの効果を明らかにしてきました。また近年では、日常生活場面における“まちなか”での身体冷却による熱中症予防の効果を検証しています。福山市内のウォークアビリティの向上に貢献するデータが得られました。

熱中症は予防できる疾病です。データに基づいた科学的根拠によって、日常生活場面や教育場面、スポーツ活動時そして労働時における有効な暑熱対策を考えています。

2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

私は体温の研究をしており、暑熱環境下の運動パフォーマンスの向上や熱中症予防、身体を冷やすための衣類や製品等の検証をすることができます。学校現場やスポーツクラブ、部活動など、広く体温に関する研究に興味がある方と共同研究ができる可能性があります。

また、令和7年6月から、職場における熱中症予防の義務化が施行されました。職場における熱中症の予防のための取り組みなど、実測と対策を行うことができると考えています。

これまでの連携実績

- ・東京オリンピック暑熱対策プロジェクト「日本代表アスリートの暑熱対策」
- ・障害者水泳に関する研修会
- ・福山市内小学校校内研修会講師
- ・協同食品株式会社衛生委員会「職場における熱中症対策について」
- ・大門高等学校探究活動「スポーツ科学(仮)」



高齢者のその人らしい暮らしを支える

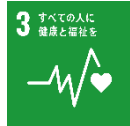
都市経営学部都市経営学科 教授 牧田 幸文

キーワード

高齢者支援、コミュニティケア、多文化とケア、ジェンダー、多文化共生

該当するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

超高齢化がすすむ地方社会において、コミュニティで暮らし続ける多様な高齢者をどう支援していくのか、これまでのフィールドワークと地域活動への参加の経験を生かして、当事者である高齢者や支援者の視点から研究を行っています。

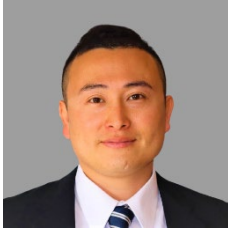
2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

- ・地域におけるエイジ・フレンドリー・シティの構築と提案(行政や地域住民との共同活動)
- ・空き家清掃活動を通して関係人口の形成(学生と地域住民の連携)
- ・多文化の背景のある住民との交流と支援(地域住民と外国籍住民の繋がり)

これまでの連携実績

- ・高齢中国帰国者介護支援団体「夕陽紅の会」を立ち上げ、言語と文化に配慮したコミュニティケアの形成(ファイザー心とからだのヘルスケアに関する市民活動助成)
- ・多文化の背景を持つ住民・団体をつなげる活動・きょうと多文化支援ネットワーク(京都市国際交流協会と連携)
- ・高齢中国帰国者(広島市・福山市)への生活支援ニーズ調査を実施(ユニバーサル財団研究助成)
- ・鞆町空き家の清掃を通して学生と地域住民の連携を促進(マツダ財団市民活動支援助成)
- ・びんご多文化共生連続ワークショップの開催(びんご多文化共生研究会、びると連携)



朝鮮半島をめぐる国際政治学

都市経営学部都市経営学科 准教授 松浦 正伸

キーワード

国際関係、朝鮮半島問題、政治と外交、安全保障

該当するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

東アジアの戦争と平和をめぐる問題に関心があります。特に、朝鮮半島をめぐる政治、外交、安全保障に関する領域を中心に、国際関係理論と事例研究を架橋する研究を行っています。戦後の引揚事業や北朝鮮帰国事業問題、歴史認識と国家間の和解形成、有事における民間人保護・輸送問題等「人間の安全保障」について関心があります。朝鮮半島地域の専門家としては、国内外で各種研究委員や学術誌編集委員を任じ、外交、安全保障問題に関する様々な政策提言を行っています。



2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

・「リベラル国際社会」の秩序形成、国際社会と人権、国家間の歴史和解形成、主権と地域主義に関する研究、分断国家の統一をめぐる問題に関心があります。また、近年では、若者の政治参加に向けた支援や子育て支援策の拡充にも関心があります。

これまでの連携実績

①共同研究、受託研究:

慶應義塾大学東アジア研究所研究員として「現代北朝鮮」研究、RIPS 平和安全保障研究所日米パートナーシッププログラムで「朝鮮有事研究」、韓国・東北アジア歴史財団で「歴史認識と外交政策」に関する国際共同研究、島根県庁島根県竹島問題研究会研究委員として「日韓の主権」に関する研究、CIGS キヤノン・グローバル・セキュリティ研究所の東アジア長期情勢研究、「ポスト核社会」をめぐる国際共同研究

②企業、行政、各種学校の委員等の委嘱:

【国外】韓国国立外交院、駐広島韓国総領事館主催の各種シンポジウム、ソウル大学校統一平和研究院『統一と平和』(査読誌)編集委員会編集委員、韓日軍事文化学会『韓日軍事文化研究』(査読誌)編集委員

【国内】国:防衛省、総務省、文化庁、国際交流基金等による各種委託調査、大学:慶應義塾大学・韓国国際交流財団「政策専門家プログラム」政策専門家、市:笠岡市「子ども・子育て推進会議」委員

③講演会講師、研修会講師、公開講座講師の実績:

京都アメリカコンソーシアム(コロンビア大学他)外部講師、朝日カルチャーセンター講師、笠岡市人権推進課外部講師





日本酒×関係人口×災害復興

都市経営学部都市経営学科 准教授 宮前 良平

キーワード

復興、関係人口、社会関係資本、日本酒、ボランティア

該当するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

西日本豪雨水害の被災地のひとつである愛媛県西予市野村町で被災した酒蔵の日本酒「緒方洪庵」を再生するプロジェクトをしてきました。クラウドファンディングで資金を集め、兵庫の此の友酒造さんで醸造をしていただきました。現在では新見の三光政宗さんに醸造してもらっています。日本酒づくりを通して、野村町のファン＝関係人口を増やし、現地の復興を支援しています。日本酒などの地域の名産は、被災地外の多くの人をつなげるだけでなく、地元の人びとの誇りを涵養することにもつながります。日本酒を飲んであなたも野村の関係人口に。そして、福山でもなにかできないかなと思っています。

参考:https://readyfor.jp/projects/ogatalab_neo-ogatakoan1

<https://nomuraneo.wixsite.com/home-ogatakouan>

(「日本酒 緒方洪庵」で検索してください！)



#大阪府 #愛媛県 #地域 #地域文化 #災害 #被災地 #日本酒 #大学

復興支援！銘酒「緒方洪庵」を復活させ、野村のまちづくりを応援したい

緒方らば・佐藤功 (大阪大学人間科学研究科教授、「NEOのむら」理事)



支援総額

3,123,000円 目標金額 1,000,000円

支援者 募集終了日

234人 2021年4月30日

フォローする

プロジェクトは成立しました！

終了報告を読む

シェア ツイート LINEで送る more

2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

- ・関係人口に関する研究の多くは連携可能です。また、復興の研究とのつながりも強いです。クラウドファンディングに関する研究とも連携できるかもしれません。
- ・日本酒などのお酒にまつわる地域貢献もできたらと思っています。



福山港泊地の潮位変化に関する研究

都市経営学部都市経営学科 教授 向井 厚志

キーワード

潮位変化、副振動、気象影響、津波伝播

該当するSDGs



1 研究内容

福山港泊地内で潮位観測を実施し、約 42 分(1.4cph)および約 13 分(4.5cph)の副振動が励起されていることを明らかにした。また、南海トラフ地震発生時に予測されている津波が泊地内へ伝播したときの潮位変化を数値計算し、泊地最奥部の最大潮位が約 4.6m となる可能性を示した。

福山港泊地における副振動

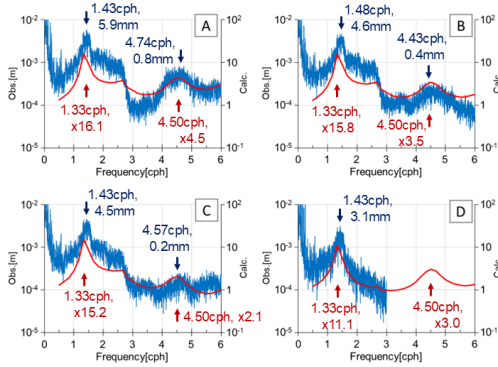
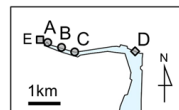


図 潮位変化の周波数特性の観測値と計算値の比較

— Obs. (観測値) : 観測された潮位残差の周波数特性
 — Calc. (計算値) : 入射波に対する増幅率の数値計算結果

- 約1.4cphおよび4.5cphに明瞭なシグナルが現れている。それらの振幅は泊地奥ほど大きい。
- 福山港口に規則波を入射させたときの潮位変化を数値計算で求めたところ、観測結果と同様な周波数特性が得られた。

観測点配置



点A~D: 潮位観測点, 点E: 気象観測点

津波伝播による潮位変化の数値計算

福山港口からの遡上距離3km以上の泊地内では、津波伝播による最大潮位が4m以上であり、泊地奥部では距離1.5kmにわたって最大潮位4.4m以上となる。

⇒台風接近等の気象条件によっては、吸い上げ効果や吹き寄せ効果、副振動の励起によって、津波に加えてさらに1m近い潮位上昇も考えられる。

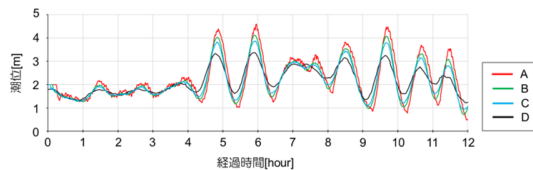
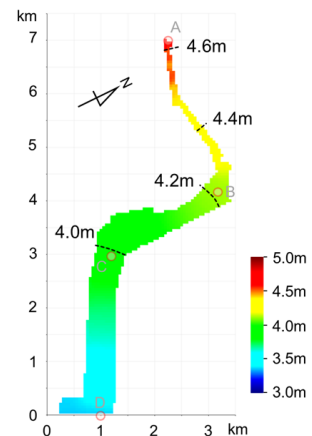


図 津波伝播による福山港泊地内の最大潮位(計算値)



2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

- ・沿岸地域の高潮や津波による被害予測の基礎資料を得るための潮位観測や数値計算

問合せ先 福山市立大学事務局総務課(地域連携センター)

TEL:084-999-1112 FAX:084-928-1248 MAIL:renkei@fcu.ac.jp



ワークライフバランスの実現と企業の社会的責任(CSR)

—「柔軟な働き方」と今日の企業経営を考える—

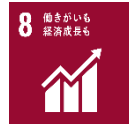
都市経営学部都市経営学科 准教授 梶田 智子

キーワード

企業と社会、ワークライフバランス、企業の社会的責任(CSR)

該当するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

ジョブデザイン(職務設計)とワークライフバランスの関係について CSR の視点から研究しています。働く人々の意思や行動、いかなる社会や文化の下で生活しているのかという要素を抜きに働くことの議論は出来ません。制度やルールといったハード面に止まらず、働く人々のコミュニケーション、仕事に対する満足・不満足等人間のソフトな面に関わるテーマです。これらへの取り組みは、住みやすい社会の創造という意味で企業にとって重要な社会的責任の一つであると考えます。

2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

- ・企業の社会的責任(CSR)論の観点からワークライフバランスの実践可能性に関する研究をしており、働き方の多様化、ジョブデザイン(職務設計)、女性のキャリア形成、(働き方に関する)ロールモデル、人材活用、雇用システム等に関心のある方と共同研究できる可能性があります。
- ・企業の社会的責任(CSR)を専門としていることから、企業の地域貢献や社会的役割、企業倫理および組織倫理に関心のある方と共同研究できる可能性があります。

これまでの連携実績

- ・福山市委員(港湾河川課運営事業者選定、情報公開・個人情報保護審議会、福山地区消防組合情報公開・個人情報保護審議会、政治倫理審査会、都市ブランド戦略推進協議会等)
- ・中国経済産業局 地域中小企業・小規模事業者 人材確保支援等事業 審査委員長
- ・福山市、企業、財団法人、公益社団法人等における研修および講演会での講師(例:コンプライアンス研修会、企業倫理研修会、社会人教育プログラム、コンプライアンス講演会等の講師)
- ・広島県立図書館 図書館資料選定委員(社会科学:経営学分野)
- ・中学校・高等学校での模擬授業・講座等講師(例:「総合的な学習の時間 学問探求講座」、「大学教員の仕事を知る」、「経営学の考え方を学ぶ」、「経営学の視点から世の中を考える」等)

歴史遺産や文化資源の保存と活用

都市経営学部都市経営学科 教授 八幡 浩二

キーワード

考古学、遺跡、文化財、地域文化、博物館・資料館

該当するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

人口減少化社会という喫緊の課題の中で、厳しい現状にある地域に所在する歴史遺産や文化資源の保存や継承、その活用について調査・研究を行っています。また、専門は日本考古学(埋蔵文化財)であり、有識者として、行政の各種審議会委員を務めるとともに、自治体史の編さん事業などにも従事しています。



「史跡 二子塚古墳」の保存整備



「史跡 福山城跡」のサイン整備

2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

- ・鉄・鉄器生産の考古学的研究
- ・備後国の成立過程に関する考古学的研究
- ・近世福山藩の歴史と文化
- ・博学連携による地域文化財の活用
- ・歴史文化を活かしたまちづくり

これまでの連携実績

- ①近世期における町人文化の遺跡・資料の研究, 瀬戸内沿岸部・島嶼部における戦争遺跡の実態調査など。
- ②福山市文化財保護審議会委員, 福山市景観審議会委員, 史跡二子塚古墳保存整備検討委員, 福山市史刊行委員会 専門部会専門委員, 福山市歴史文化基本構想策定委員, 尾道市文化財保護委員会委員, 三原市文化財保護審議会委員, 尾道市史編集委員会 専門部会(考古)委員, 尾道市史編集委員会 専門部会(古代)委員, 広島県立歴史博物館友の会理事など。
- ③福山市東部市民大学「教養講座」講師, 福山市老人大学「教養科」講師, 尾道市立中央図書館「文化講座」講師, 福山市文化財講座「文化財めぐり」講師, 福山市文化財協会「歴史講演会」講師, ふくやま草戸千軒ミュージアム(広島県立歴史博物館)「博物館大学」講師など。



共生の人間関係の探究

都市経営学部都市経営学科 教授 山口 健一

キーワード

共生、多文化共生、異文化コミュニケーション、偏見、差別

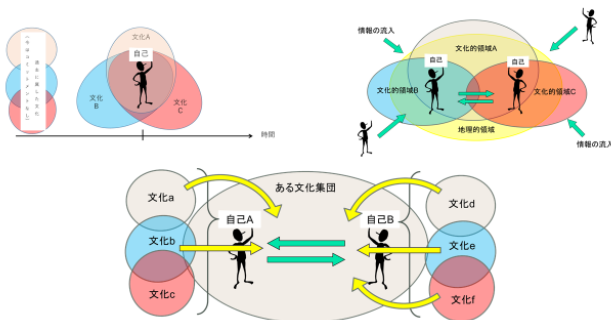
該当するSDGs



1 研究内容

社会学理論(シンボリック相互行為論)と質的調査法(グラウンデッドセオリー法)の研究とともに、日本社会の民族的マイノリティとマジョリティとの交流の調査を行ってきました。「日常生活における人間関係」という視点から、偏見や差別の実態、共生の可能性を探究しています。

シンボリック相互行為論 (イメージ図)



グラウンデッド・セオリー法



コード化のプロセス



理論化のプロセス

事例の調査研究



多文化共生の民族まつり



災害ボランティア

2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

これまでの連携実績

- ・大学での公開講座講師(『和の精神』と『多文化共生』のあいだで考える)
- ・高等学校での講演会講師(「多文化共生の民族まつり」etc)
- ・行政向けの研修会講師(「人権感覚養成ワークショップ」etc)
- ・行政への政策提言(「福山市人権施策有識者検討会議委員」「福山市人権施策推進審議会委員」etc)
- ・日本財団学生ボランティアセンター理事

問合せ先 福山市立大学事務局総務課(地域連携センター)

TEL:084-999-1112 FAX:084-928-1248 MAIL:renkei@fcu.ac.jp



意思決定への非専門家参加の倫理的重要性

—都市計画や科学・技術、政策実践の公正かつ民主的な方向づけ—

都市経営学部都市経営学科 准教授 山本 千寛

キーワード

非専門家参加、専門職倫理、技術者倫理、公正性、民主的意思決定

該当するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

日常生活や都市のあり方、そして科学・技術とともにある社会を、人びとにとって望ましい未来の姿へと民主的に方向づけていく手がかりを、社会思想史や近現代の具体的事例のうちに探っています。

- (1) 日常生活や都市のあり方をめぐる思想研究
都市に住まう誰にでも「(都市での)生活をもっとこんな風に変えたい！」という訴えや要請を表明する権利(都市への権利)があると提起したフランスの思想家アンリ・ルフェーヴルの思想を中心に、社会思想や都市思想の研究にとり組んでいます。
- (2) 科学・技術とともにある社会を公正かつ民主的に方向づけていくための学際的研究
セルフビルドをはじめとする非専門家の技術実践と、そうした実践への「専門家参加」の研究、専門職倫理の検討のほか、戦時の(建築家を中心とした)技術者の動員なども研究しています。

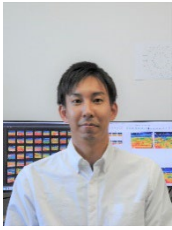
2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

- ・都市計画や科学・技術、政策実践の公正さや民主的な方向づけをめぐる実践的あるいは倫理的な議論
- ・特定専門職の倫理綱領をめぐる文献調査や、専門職倫理や技術者倫理をめぐる共同インタビュー調査
- ・科学・技術と社会の関係や、科学・技術が社会生活に与える影響にかんする歴史的な経緯や事例の研究
- ・上述のテーマに関連する審議や審査、提言(協議会・委員会の委員や、企業内倫理審査の外部委員など)
- ・上述のテーマに関連する市民対話などでの話題提供やファシリテーター

これまでの連携実績

- ・都市空間のあり方と芸術の関係をめぐる対話イベントでの話題提供と鼎談
(ラボカフェ/鉄道芸術祭 vol.10、京阪電車なにわ橋駅アートエリア B1)
- ・台風に介入する技術とその実現をめぐる市民対話のファシリテーター (鹿児島県肝属郡肝付町)



気候変動や人口減少への適応に向けた 自然/生活環境の解析と空間づくりの実践



都市経営学部都市経営学科 准教授 横山 真

キーワード

気候変動、人口減少、暑さ対策、賑わい創出、GIS

該当するSDGs



1 研究内容

近年深刻化しつつある気候変動(地球温暖化)や人口減少に適応した都市/地域づくりを目指して、データを用いた現状把握、要因分析、対策検討等を行っています。対象はまちなかの自然環境(暑さ、空気の流れ、緑の量等)や人々の生活環境(施設配置、住みやすさ、賑わい等)と比較的広く、フィールドワーク、コンピュータ・シミュレーション、地理情報システム(GIS)等の手法を駆使して研究を行っています。

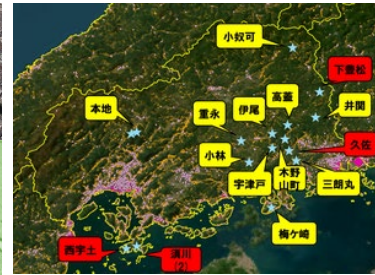
屋外における暑さ指数の測定



衛星画像を用いた緑被率解析



医療アクセス困難地域の可視化



また大学内外の方々と連携した地域資源活用や空間づくりの実践も、学生を含む研究室(ゼミ)を中心として積極的に行っています。例えば、過去には春日池公園でのカヤック体験会(福山市、村上水軍商会と連携)、校内広場のアップデート(福山市立鞆の浦学園と連携)、災害にも強い地域支えあいマップ作りのお手伝い(広島大学、三原市社会福祉協議会と連携)等を実施しました。

簡易的な百葉箱の製作



水辺空間の活用実験



地図を使った住民ワークショップ



2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

- ・都市/地域の自然や生活環境の現状評価と課題抽出
- ・地域の資源活用や課題解決に向けたワークショップ実施や空間づくりの支援
- ・まちづくりに関連する社会実験やイベントでのコラボレーション

これまでの連携実績

- ・行政計画策定等における助言や委員としての参画(市役所との連携)
- ・災害にも強い地域支えあいマップ作りの運営・補助(地域・他大学との連携)
- ・春日池公園におけるカヤック体験会の実施(市役所・民間事業者との連携)

問合せ先 福山市立大学事務局総務課(地域連携センター)

TEL:084-999-1112 FAX:084-928-1248 MAIL:renkei@fcu.ac.jp



人口減少・少子高齢化社会における持続可能な地方創生・価値創造

～都市・地域計画、都市交通政策の実務経験を地域に還元～

都市経営学部都市経営学科 教授 渡邊 一成

キーワード

都市・地域計画、都市交通政策、国土計画、まちづくり、地方創生

該当するSDGs

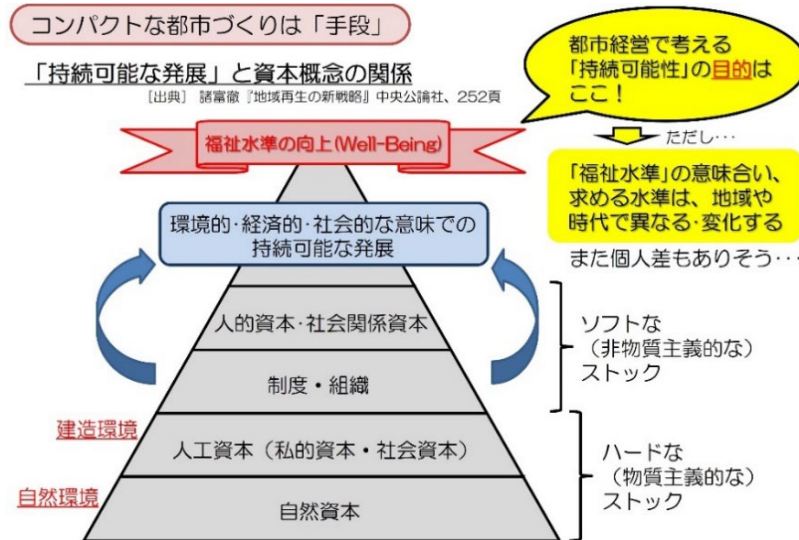
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



1 研究内容

本学着任までの約 23 年間、都市計画コンサルタントとして国や地方公共団体の都市計画・都市交通政策・国土計画に携わってきた経験をもとに、持続可能な都市づくり・価値創造に関する学際的な研究に取り組んでいます。

教育研究では都市基盤施設(都市インフラ)、都市交通政策、都市計画を担当していますが、地域貢献活動として様々な審議会・協議会の委員を数多く拝命しており、企画立案・計画策定やファシリテート・コーディネート力を発揮して、地方都市の再生・創生、新たな価値創造に関する実践に取り組んでいます。



2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

- ・行政における都市計画・都市交通政策・国土計画の支援(各種審議会・協議会への参画)
- ・地域資源を活用した地域づくりの計画策定・事業実施の支援(地域における勉強会の実施)
- ・高等学校における総合的な探究の時間(地域探究活動)やキャリア学習(ロジカルライティング)などの支援(高大接続・高大連携)

これまでの連携実績

- ・国土交通省や広島県、広島市、備後圏域の自治体等における都市計画・都市交通・都市施設・まちづくりに関する各種審議会・協議会への参画
- ・「まちづくり・まち育て」に関する地域ブロック会議や町内会での勉強会の講師
- ・福山市立福山高校、岡山県立笠岡高校、岡山県立岡山芳泉高校等での模擬授業(テーマ:買物難民、観光、防災、地域活性化(賑わいづくり)など)や地域探究活動、キャリア講習会の講師

問合せ先 福山市立大学事務局総務課(地域連携センター)

TEL:084-999-1112 FAX:084-928-1248 MAIL:renkei@fcu.ac.jp

福山市立大学 研究シーズ集

発行・編集 福山市立大学
〒721-0964
広島県福山市港町二丁目 19 番 1 号
TEL(084)999-1112
FAX(084)928-1248
E-Mail:renkei@fcu.ac.jp
URL: <https://www.fcu.ac.jp/>

